

努力シ來レル次第ナルカ各省事務分掌関係、必要法規ノ缺陥、一部商品ノ生産及輸出機構ヨリ來ル事實上ノ困難當業者ノ無自覺等ヨリ來ル幾多ノ障害アリ対策樹立ニ遺憾ノ吳少カラサリシカ不斷ノ努力ヲ續ケ來レル結果各方面トモ次第覺醒シ來リ曩ニ外務省ニ於テ組織セル官民合ノ通商審議委員会モ其ノ必要ヲ認メ來リツ、アルノミナラズ商工省ニ於テハ輸出組合法工業組合法等關係法令ヲ改正シ必要ニ應ジ組合ヲ強制的ニ組織セシメ關係當業者ノ總テニ組合ノ規定ヲ強行シ得ルコトスル外特定物品ノ輸出入ヲ禁止制限シ得ル途ヲ開カントシ既ニ右法律ノ改正ナキ今日ニ於

テモ當業者ヲ指導説得シ最近對蘭領印度「セメント」及「ビール」ノ輸出組合、対米鮪罐詰共同販賣會社、日本電球工業組合聯合會等ヲ設立シ尚対印度綿布輸出ニ關シテモ強固ナル機關設立方努力中大藏省ニ於テハ無條約關係ノ防止ノ為複稅制度採用方審議中ニテ夫々着々研究ノ進捗ヲ見ツ、アリ（尤モ大藏省ニテハ複關稅制度採用ニ躊躇ノ風ナキニ非ズ）外務省トシテハ常ニ諸外國ニ於ケル情勢ヲ説

明シ極力關係省ト協力シ少クトモ近ク開会セラルベキ議會ニ於テ必要ナル法律ノ改正ヲ實現セシメンコトヲ期シ折角努力中ニシテ殊ニ最近各國共同戰線結成ノ形勢ニ關シテハ五月本大臣ヨリ閣議ニモ報告シ置キタリ

本邦ハ最近顯著ナル輸出ノ發展ヲ見ツ、アリト雖モ依然輸入超過國ナルヲ以テ（本年一月ヨリ十月迄輸出一、五二五、一三六、九〇二圓輸入一、五六二、八七五、七三三圓）前記互惠協定ノ締結ニ依リ相當廣キ範囲ノ國ニ對シ相互依存ノ關係ヲ確立シ健實ナル經濟的發展ヲ計リ得ル次第ナリト思考ス

就テハ右共同戰線結成ノ形勢ニ關シ何等御心付ノ吳殊ニ対策促進上關係省、當業者等説得ニ必要ナル材料ハ此上トモ至急御報告相成度一方貴任國政府及民間ニ對シ上述帝國政府ノ態度ヲ徹底セシムル様極力御措置相成度シ

普通情報通り轉電アリ度シ

（佛ヘノミ）英ヘハ直接電報済

2 米国經濟復興政策と日米貿易問題

411 昭和8年1月23日

在米国井上（豊次）大使館商務書記官
代理より
内田外務大臣宛（電報）

米国における日本品廉売問題の根本的対策として

我が方當業者の統制を急務とすべき旨意見具申

ニユ一・ヨーク 1月23日後発
本 省 1月24日後着

第四號

昨年來圓爲替下落ニ伴ヒ本邦雜貨ノ米國輸入増加スルト共ニ本邦當業者間ノ競争モ相當烈シク往々法外ナル安賣ヲ爲スモノアリ此ノ際徒ニ國益ヲ空シクスルノミナラス米國製造家ノ怨ヲ買ヒ不當廉賣法ノ適用、關稅引上、爲替下落（脱？）ノ運動補償附加稅徵收案並「バイ、アメリカン」ヲ誘致シツツアルニ對シ根本的對策トシテ本邦當業者ノ統制ヲ急務トシ既ニ本邦ニ於テ輸出組合等ノ組織ニ依リ輸出價格漸騰シツツアルハ喜ハシキ事ナルモ此ノ際更ニ貿易ノ永久的發展ヲ期スル爲本邦組合ハ販賣市場ト密接ナル聯絡ヲ保チ殊ニ輸出價格決定ニハ輸出先市場ニ於ケル競爭品ノ

表ノ場合ニハ然ルヘク注意ヲ要ス右爲念

相場及販賣狀況ヲ常ニ考慮シ（實）際的ナル措置ヲ執ル事緊要ナルヤニ思考セラル處陶磁器ニ於テハ工業組合及輸出組合完成セラレタル由ニテ最近大日本陶磁器輸出組合飯野理事長ノ來紐セルヲ期トシ當地本邦雜貨輸入商ハ右ノ趣旨ニ依リ内外協調ノ實ヲ擧クル目的ヲ以テ屢々協議ヲ重ね其ノ間ニ在米大使館ヨリ水澤書記官ノ臨席ヲモ請ヒ本官亦列席ノ上遂ニ一月二十日紐育雜貨輸入商組合ノ組織ヲ確立スルト共ニ今後大日本陶磁器輸出組合ト協力シ差當リ對米輸出陶磁器標準物八種ニ付適當ナル當地販賣價格ヲ基礎トシ弗建ヲ以テ本邦輸出價格ヲ協定スル事ヲ決議シ其ノ實現方ニ付輸出組合ヘノ提議等具体的交渉ヲ飯野ニ一任セリ右ハ本邦陶磁器輸出ノ將來ノ爲甚夕時宜ヲ得タル措置ナリト存セラルルノミナラス之力成功ノ曉ニハ他ノ本邦輸出品ニモ範ヲ示スヘキニ付右ニ對シ本邦組合ヲ然ル可ク御指導方御配慮ヲ請フ尙右價格協定ノ儀ハ「アンチトラスト」法ニ抵觸ノ惧アルニ付單ニ當地市況報告ノ形ト成ス事トシ公表ノ場合ニハ然ルヘク注意ヲ要ス右爲念

米国大統領による金輸出禁止措置の目的など
について

ワシントン 4月20日後発
本 省 4月21日後着

第三五〇號
往電第三四八號ニ關シ

一、右往電二ノ大統領聲明ハ弗ノ外國爲替相場ニハ政府トシテハ最早干涉セス弗相場維持ノ爲金ヲ輸出スルカ如キコトハ今後之ヲ行ハサル意図ヲ表明シタルモノニシテ今後ハ從來「イヤー、マーク」セラレタルモノ以外ハ嚴重ニ金ノ輸出ヲ禁止セントスルノ趣意ト解セラル處十九日夜大藏長官ハ右ノ解釋ヲ是認シ從來「イヤー、マーク」セラレタルモノト雖モ少クモ茲數日ハ輸出セシメサル意図ナルコトヲ表明シタルカ尙今日ノ決定ヲ以テ米國力眞ノ意味ニ於ケル「ゴーリード、オフ」ヲ爲シタルモノナリト說明シ居レリ右決定ニ至レル事情ハ逐次往電ノ通ナルモ今之ヲ要約スレハ内外情勢ノ推移ニ鑑ミ米國內ニ於テ

物價ノ昂騰ヲ計ルカ然ラスンハ海外市場ニ於ケル弗ノ相場ヲ保持スルカ何レカ其ノ一ヲ採ルノ必要ニ迫ラレタル結果現政府ニ於テハ遂ニ前者ヲ擇フニ至リタルモノニシテ大体今回ノ新方針ハ

(一)世界ノ狀況ニ左右サレ得ヘキ米國商品ノ國內値段ヲ高

ムルコト

(二)國內ニ於ケル金ノ保持ヲ確實ニシ國內信用ヲ充分ニ擴張スルニ便ナラシムルコト

(三)來ルヘキ英國首相其ノ他トノ下打合及世界經濟會議ニ於ケル貨幣問題ノ討議ニ際シ米國ノ地位ヲ有利ニスルコト

四、大統領ノ必要ト認ムル何等カノ方策ニ依リ國內物價ノ統制ヲ計ルト共ニ之ニ依リ議會内ニ勢力ヲ増シツツアル無謀ナル通貨膨脹論ノ進行ヲ牽制スルコト

ノ四目的ヲ有スト稱セラル

二、右決定ニ基ク立法措置トシテ其ノ後ノ情勢ニ依レハ上院ニ於ケル通貨膨脹論ノ主唱者タル「トーマス」ハ十八日大統領トノ談合ノ結果農業救濟案ノ修正案(往電第三三五號)ヲ撤回シタル後更ニ政府當局ト談合ヲ續ケツツアト考ヘタルカ爲ナリト傳フルモノアリ

ル一方十九日以來大統領ハ政府當局及議員有力者ト協議中ナル處結局今後ノ通貨對策ノ爲大統領ニ對シ廣汎ナル權限附與ノ考案近ク議會ニ提出セラルヘシト豫想セラル其ノ内容トシテ探聞スル處ニ依レハ大統領ニ對シ

(一)必要ト認ムル「トレジユアリー、ノート」ノ増發

(二)弗ノ金純分切下

(三)戰債ノ支拂ニ一定額迄銀貨支拂ヲ認メ得ルコト

等ノ權限ヲ與フルコトナルヘク右ハ大統領周圍ノ學者連ノ原案ナルカ既ニ政府當局及議會有力者間ニ於テ主義ニ於テ一致ヲ見タルモ尙米國憲法ノ條項上斯ノ如キ廣汎ナル權限ヲ認メ得ルヤノ問題等モ有リ未タ二十日正午迄ハ確定シ居ラスト云フ

(二)右今回ノ米國ノ措置ニ關聯シ專ラ傳ヘラル處ヲ綜合スルニ通貨安定問題ハ二十一日來訪スヘキ英首相ト大統領トノ會談ニ於テハ素ヨリ來ルヘキ國際經濟會議ノ主要議題トナルヘキ狀勢ニアリ即チ米國側ニテハ世界各國間ニ於ケル通貨價值ノ安定ヲ缺キ變動常ナラサリシ事ハ國際通商力平時ノ三分ノヲ減シタルカ如キモ之ニ職由ストノ議論アリ加フルニ往電第三四二號末段ノ通り議會其ノ

四、前記二ノ法案ノ外更ニ第二ノ手段トシテ如何ナル措置ヲ講スヘキヤハ今日迄何等言明セラレ居ラス尙大統領今回ノ措置ニ關シテハ新聞紙ハ大体ニ於テ大統領ノ一大英斷ナリト稱シ居レルモ果シテ所期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤノ豫測ニ付テハ必シモ一致シ居ラス保守的傾向ヲ有スル論者中ニハ此ノ種ノ政策ニ依リ一時ハ物價ノ騰貴ヲ見ルヘキモ弗ハ安定ヲ缺ク結果米國ノ國際通商ハ減少ヲ來

スノ恨アルヘシト爲スモノアルト共ニ米國力債權國タル關係上及國際通商上ノ受取勘定ヲ有スル限り弗貨ノ需要ハ絶ヘサルヘキ事並金ノ保有量多大ナル事等ノ理由ニ依リ弗ノ著シキ下落ハ殆ソト之ヲ期待シ難ク著シク貨幣ノ下落セル國トハ貿易上ノ競争ハ米國ニ取りテハ依然困難ナリト説クモノアリ

413 昭和8年4月20日

在ニユー・ヨーク堀内総領事より
内田外務大臣宛(電報)

米国大統領の金輸出禁止発令に対する同国財

界の反響について

ニュー・ヨーク 4月20日後発
本 省 4月21日後着

十九日大統領ノ金輸出決定的禁止發令ニ關聯シ當地財界方面ニ於テハ J. P. Morgan カ不況對策ハ「デフレーション」ノ諸原因ヲ制御スルニアリトノ見地ヨリ右措置ヲ歡迎スル旨聲明シタル外一般ニ「インフレーション」見越ニテ樂觀氣分ヲ示シ(各市場狀況ニ付テハ商務官電報參照)之ヲ以

第一一三號

第一一三號

414 昭和8年4月21日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

米国大統領による金輸出禁止措置の要点について

ワシントン 4月21日後発
本 省 4月22日前着

輸出超過國ノ地位ニアル限リ早晚「バー」ニ近ク落着クニ至ルヘント見ル向多シ
在米各館ニ轉報セリ

往電第三四八號ニ關シ
二十日大統領カ三月九日ノ法律第二條ニ依リ修正セラレタル千九百十七年十月六日ノ法律第五條(B)ニ依リ附與セラレタル權能ニ基キ發セル外國爲替「イーヤ、マーク」金貨、金塊又ハ通貨ノ輸出禁止ニ關スル命令ノ(「テキスト」郵送ス)要點左ノ通

(一)追テ命令スル迄外國勘定ノ「イーヤ、マーク」及金貨、金塊若ハ金證券ヲ輸出ヲ禁止ス但シ大藏長官ハ其ノ裁量ニ依リ金貨及金塊ニシテ外國政府、外國中央銀行又ハ國際決済銀行ノ爲ニ「イーヤ、マーク」又ハ預託セラレ居ルモノ大統領ニ於テ公益上必要ト認ムル取引ニ用ヒラルモノ等ノ輸出ヲ許可スル「ライセンス」ヲ發スルコトヲ得

(二)追テ命令スル迄大藏長官ハ外國爲替取引、外國ヘノ信用移轉及外國ヘノ通貨輸出ヲ調査管理又ハ禁止スルコトヲ得

(三)三月十日ノ大統領令中ニ含マレタル外國爲替取引ニ關スル規定ハ完全ニ效力ヲ持續ス但シ本令又ハ本令ニ基キ發

スル規定ハ完全ニ效力ヲ持續ス但シ本令又ハ本令ニ基キ發

第一一六號

415 昭和8年4月24日 在ニユー・ヨーク堀内総領事より
内田外務大臣宛(電報)

ドイツのユダヤ人排斥問題が我が方対米輸出に及ぼす影響について

ニュー・ヨーク 4月24日後発
本 省 4月25日前着

十五日「タイムス」カ十四日東京發「バイヤス」特電トシテ第一面ニ「東京ニ猶太人排斥運動起ル」トノ見出シノ下ニ「ジー・イー」特許權反對示威運動ノ際四王天中將等力

同民族排斥演説ヲ爲シタル旨ヲ掲ケタル爲當地方ニ於テ相當注意ヲ惹キ特ニ「ヘラルド・トリビューン」ハ二十三日右運動ハ一部ノ排外的實業家及國家主義者力獨逸ノ「ナジ」ノモノナリトノ社説ヲ掲ケタルカ、右ニ關シ最近獨逸ノ政策ニ神經過敏ト成リ居ル猶太人中ニハ日本品不買ノ意ヲ漏ラスモノスラアル趣ニテ猶太人新聞 The Day ヨリ當館ノ「ステートメント」ヲ求メタルニ付前記排斥演説ハ何等民族問題ニ關係無キ一、二ノ偶發的言論ニテ日本人ハ全體トシテ猶太人ニ好意ヲ有スル旨ヲ程良ク發表シ右ハ二十三日ノ同紙及他ノ二猶太語ノ新聞ニ掲載セラレタリ

御承知ノ如ク當地方ヲ中心トスル本邦生糸、絹織物、陶器及雜貨ノ輸入取扱商ノ大多數ハ猶太人ナルヲ以テ當市猶太系住民ノ多數ナルト相俟チ前記ノ如キ報道ハ意外ナル反感ヲ招キ延テハ本邦品ノ取引上ニモ支障ヲ生スル惧アリ殊ニ最近同民族間ニハ獨逸品排斥運動相當行ハレ居ル模様ナルヲ以テ其ノ競爭品タル本邦陶器、雜貨類ハ今ヤ市場擴張ノ好機ニ在ルニ拘ラス一部當業者ノ利己的言動ノ爲却テ不利ナル一般的影響ヲ誘致スルカ如キハ甚タ面白カラス其邊ハ

爲八日八十餘時間ニ亘リ討議ヲ續ケタリ政府側モ閉會促進ノ爲兔角ノ反對論ヲ豫期セラルル關稅商議ニ關スル權限附與法案ノ提出ハ全ク斷念セル趣ナリ

三、八日上院ハ產業復興法案ニ對シ政府ト妥協ノ結果往電第五三八號(一ノ外國品輸入禁止ニ關スル項ヲ修正シ別電第五五二號ノ如キ外國品輸入制限ニ關スル條項ヲ附加シタリ右ハ關稅引下乃至通商障壁緩和ヲ高調スル國務長官ノ政策ト相容レサルモノナルモ目下ノ議會ニ於ケル形勢ヨリ察スレハ下院トノ協議會ニ於テモ反対アリトモ思ハレス法律トナルハ必然ノ勢ナルカ如ク前記關稅商議ノ權限附與案ノ提出斷念ト共ニ經濟會議ニ於ケル米國ノ態度ニモ關聯シ注意ヲ要スヘン

經濟會議全權へ轉電セリ

(別電)

ワシントン 6月9日後発

本省 6月10日後着

往電第五三八號(一ノ關シ
第五五二號

既ニ當局ニ於テ御考慮中ノ事ト存スルモ爲念申添フ
米、在米各領事ニ暗送セリ

416 昭和8年6月9日 在米國出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

米國上院における産業復興法案への外国品輸入制限関係条項の付加について

別電 六月九日発在米國出淵大使より内田外務大臣宛第五五二号

右外國品輸入制限関係条項

ワシントン 6月9日後発
本省 6月10日後着

往電第五四五號ニ關シ
第五五一號

一、其後政府筋ノ運動ト退役軍人恩給ノ削減ヲ幾分緩和スル政府ノ妥協案作成セラレタル爲上下兩院ノ形勢稍政府側ニ有利ニ展開シ始メ産業復興法案ニ關シテモ上院ハ本會議ニ於テ共和黨側ノ修正ヲ退ケ政府ノ重要政策タル産業ノ許可制度ニ關スル項ヲ支持スルニ至リ急速閉會ヲ計ル

二、右政府ノ要求ニ依リ上院ニテ附加セラレタル修正ハ要スルニ所謂不正競争トナルモノト認メラル外國品ノ輸入ニハ特別關稅「クオータ」及輸入制限ヲ爲サントスルモ

ノニシテ其ノ要綱左ノ如シ

(イ) 外國品ニシテ同業組合規約ヲ無效ナラシムルカ如キ状

態ノ下ニ輸入セラレ且其ノ輸入漸次増加ノ傾向有ル場

合大統領ハ自發的ニ又ハ労働團体ヨリノ申請ニ基キ關

稅委員會ヲシテ事實ヲ調査セシメ右ノ如キ外國品ハ大

統領ノ必要ト認ムル一定ノ條件ノ下ニ一定ノ「^{〔斐〕}「^{〔イー〕}ズ」

(一種ノ特別關稅)ヲ支拂ヒ一定ノ期間限ラレタル數

量ヲ輸入シ得ヘキ旨規定シ大藏長官右規則ヲ實施ス

(ロ) 輸入業者ハ右物品ノ輸入ニ先立チ大藏長官ノ許可ヲ得

ヘキモノトス

(ハ) 外國品ニ關スル事實調査ノ決定ハ大統領ノ裁定ヲ終局

的ノモノトス

(二) 本項ニ依ル輸入ノ條件及制限ハ大統領力必要無シト認

ム迄繼續ス

經濟全權ヘ轉電セリ

417 昭和8年6月21日

内田外務大臣より
在米国出淵大使宛(電報)

産業復興法案不正競争条項の関稅休戦決議へ

418 昭和8年6月21日

在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

産業復興法案不正競争条項の関稅休戦決議へ

の違反性および同条項の本邦品への適用問題等に関する國務省經濟部長見解について

ワシントン 6月21日後発
本 省 6月22日前着

第五八五號

貴電第一六六號ニ關シ

武富ヲシテ國務省經濟部長「リブシー」ニ質サシメタル處

產業復興法ノ不正競争條項ハ大統領ニ特別關稅「クオータ」

及輸出制限等ノ權利ヲ與ヘタルニ止マリ今直ニ實施セント

言フニ非ス且五月十二日ノ決議ニハ英佛等ニ諸國力現ニ懸

案中ノモノヲ除外スル意味ノ留保ヲ附シタル關係モアリ自

分等トシテハ右權限附與ノ條項カ該決議ニ違反ストハ考ヘ

居ラス實ハ上院委員會案カ大統領ニ何等裁量ノ餘地無キ窮

屈ナルモノナリシヲ國務省ニ於テ内外ノ情勢ニ鑑ミ注意ヲ

喚起シタル結果漸ク前記ノ通餘裕アルモノトナリタル次第

ニテ該法律カ如何ニ運用サルルヤハ未タ不明ナリ近キ將來

ノコトトハ思ハサルモ若シ實行セラルトナレハ無論日本

品ニハ限ラヌ譯ニテ同様ノ條件ニ該當スルモノ全部ニ適用

セラルル管ナリ尤モ該條項ハ今後經濟會議ニテ協定サルル

の違反性および同条項の本邦品への適用意向

等につき米国政府当局に確認方訓令

本省 6月21日後8時10分発

貴電第五六七號ニ關シ

産業復興法案ハ貴電第五五二號一中段括弧内ノモノヲ不正競争ト認メ右ニ對シテハ特別關稅「クオター」及輸入制限ヲナントスルモノナルニ付五月十二日ノ國際經濟會議組織委員會決議ニ違反スルコトナキヤ又米國政府トシテハ之ヲ及其ノ他ノ労働条件ノ關係上不正競争ト見做サルル場合多ク其結果打撃ヲ受クル虞渺カラサル様思考スル處本法自体ガ前記決議ニ違反スルコトナキヤ又米國政府トシテハ之ヲ本邦品ニ及ホス意向ナキヤ等ニ付責任國當局ニ御確メノ上結果回電アリタシ

經濟全權ヘ轉電アリタシ

經濟全權ヘ轉電セリ

419 昭和8年6月29日

在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

産業復興法案不正競争条項の関稅休戦決議へ

豫定トナリ居ル將來ノ關稅休戦等トモ關係アル事項ナルニ付米國代表部ニハ出發後ノ立法經過等詳細ニ説明シ遣リ置キタル趣ナリ

經濟全權ヘ轉電セリ

第六〇一號

井上商務官代理ヨリ左ノ通

一、米國產業復興法ハ着々進捗シ二十七日ヨリ同法ニ依リ產業管理局ハ綿業組合規約ニ對シ「ヒヤリング」ヲ開始シ次

テ各種同業組合ノ統制ヲ急キツツアリ右ノ主タル目的ハ銀價及工業製品價格ノ騰貴ヲ來シ農業救濟法ニ據ル農產品ノ

價格吊上策(商務官代理發大臣宛電報第四三號及第四四號參照)ハ當國ノ金融政策ト相俟ツテ諸物價及生活費ヲ騰上

セシムル事愈確實ト觀ラルルニ至レル處前記法律殊ニ産業復興法ノ實施ハ少クトモ輸入制限ヲ伴フコト必然ニシテ既ニ同法第三條(E)項ノ規定ヲ設ケルノミナラス同業組合規約案（商務官代理發大臣宛電報第三六號）中ニモ輸入制限ヲ考慮シ居ル次第ニテ此ノ大勢ハ米國ノ國內政治及產業ノ現状ニ鑑ミ現民主黨政府トシテハ國際的ニ多少ノ無理アリテモ之ヲ遂行スルニ努ム可キ狀勢ニアルハ現ニ前記諸點ノ實施力既ニ具体的ニ着々進捗シツツアル事實ニ據ルモ明カナリ

二、昨年来本邦雜貨ノ對米輸出ノ苦キ經驗ニ鑑ミルモ本邦當業者ハ此ノ際此ノ大勢ニ對應スルノ決心ヲ爲スヲ要スヘク少クモ前記ノ如キ輸入制限ニ對スル新法規ノ障碍アリテ本年輸出期ハ昨年度ニ比シ困難ナル事情ノ増加セルハ之ヲ覺悟セサル可カラス

在紐育本邦雜貨輸入商組合ハ最近協議ヲ重ネ先ソ右陶磁器標準物ノ輸出統制價格決定促進方ニ付本邦輸出組合ト交渉中ナルノミナラス在紐育本邦絹織物輸入會モ今後ノ輸入上ノ障害ヲ慮リ販路改善並ニ擴張ノ爲本邦輸出業者ニ資金調達方ヲ提議シ居ルニ付本邦ニ於テモ當業者ニ於テ充分ノ協

420 昭和8年7月20日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)
米国側余剰小麦・綿花と我が方生糸との物々
交換的取引きに関する米国元駐伊大使よりの
申越しについて
ワシントン 7月20日後発
本 省 7月21日前着

第六三五號(極秘)

(¹) 往年伊國駐劄米國大使タリシコトアル Richard Washburn Child 十九日本使ヲ來訪シ自分ハ御承知ノ通り紐育ニテ法律事務ヲ職業トシ居ル關係上實業界トモ連絡アル次第ナルカ米國ハ過剩製品ニ苦シミ居ル現狀ニテ日本モ少クモ過剩生糸ノ處分ニハ手ヲ焼カレ居ル模様ナルヲ以テ米國ノ過剩品タル棉花及小麥等ト日本ノ生糸トノ間ニ差向キ約一千万弗ノ見當ニテ物々交換的ノ取引ヲ爲スコトヲ得ハ啻ニ過剩品處分ノ共助的取引ト云フノミニアラスシテ時節柄日米間ノ經濟的協調ヲ示スコトモナリ政治的ニモ無形ノ效果アルヘシト考ヘ居ル處紐育ニ本社ヲ有スル Arnold Cheney Trading Co. (米國絹業界ノ知名ノ士タル Cheney トハ無

調ヲ計ル様可然御配慮アリタシ尙「ゴム」鞆ニ付テハ關稅評價基礎變更(在米大使發外務大臣宛電報合第六六號)ニ對シ二月一日附關稅委員報告中右生產費調查ハ短期間ノ資料ニ依リタル上然モ内外經濟狀態ハ變調ニアリ殊ニ圓價激落ノ際日本ノ事情ヲ代表スヘキ資料不充分ナリトノ理由ニ依リ更ニ生產費ヲ調查ノ上再考スヘキ旨ヲ約シ居レル關係アリ其他鮪罐詰ヲ始メトシ電球「セルロイド」製品「ブランシ」「マツチ」魚網「ラツグ、ラツグ」等關稅引上ノ爲關稅委員ノ調查中ニ屬スルモノ或ハ不當廉買^(賣)ノ疑ニ依リ大藏當局ノ調査ニ委ネラレタルモノニシテ未タ決定シ居ラサルモノニ付テハ今後本邦側ノ統制ニ依リ有利ナル解決ヲ得サルヘカラス

三、我内地ニ於ケル輸出統制ノ困難ナルハ米國側ニテモ充分承知ノコトナルヲ以テ此ノ際米國側ノ眞劍ナル產業統制ニ備フル爲本邦各種輸出品ニ付統制ヲ計ラントセハ官民一致ノ最モ眞劍ナル統制策ノ確立ヲ急務トスヘシ
壽府大使ヘ轉電セリ

(²) 右米國會社ノ計畫ヲ詳細ニ説明スルモノハ別ニ其人アリテ何時ニテモ出頭セシメ得ヘキモ自分ハ日米關係增進ナル見地ヨリ此ノ種ノ取引ノ成就ヲ希望スルモノニテ成ル可クハ日米兩國政府ノ承認ノ下ニ話ヲ進メ度ク米國政府トシテハ

未タ確カメタル譯ニハ非サルモ別ニ異存ナカルヘク殊ニ前記輸出ニ要スル資金ハ R、F、Cヨリ借受可能ノ見込ナリ

本件ハ當分極秘ニ附シ一般商人ニハ洩サヌ様致度キモ日本政府ニ於テ此ノ種ノ取引ニ反対ナキ御見込ナラハ先ツ大使館以外ヨリ適當ノ人ヲ指名セラレ詳細ノ内容ヲ話合フ事ト

シ度シト申出テタリニ對シ武富ヨリ適宜應酬ノ後考案ノ精神ハ尤ナル思付ナランモ實際問題トシテハ實行可能ナリ

ヤ判断シ兼ヌルニ付一應政府ノ意向ヲ確カメタル上必要ナラハ更ニ詳細ノ御説明ヲ承ル事トスヘシトテ再會ヲ約シ置

キタリ同人ハ元來共和黨系ニ屬スルモ昨今「ホワイト、ハウス」及國務省ニ頻リニ出入シ居ル事實アルノミナラス日米關係ニハ豫テ興味ヲ有スル人ナルヲ以テ本件取引可能性ノ如何殊ニ滯荷生絲ノ處分ニハ新販路、新用途トノ制限アリテ本件利用困難ナランモ普通ノ新生絲ヲ利用スル途アルヘキヲ慮リ一應御詮議ノ上今後ノ應酬振ニ付何分ノ儀御回電アリ度シ先方ニ於テハ RFC ヨリノ融資關係上至急我方

ノ意向ヲ承知シ度キ趣ニ付爲念申添フ
電アリ度シ先方ニ於テハ RFC ヨリノ融資關係上至急我方ノ意向ヲ承知シ度キ趣ニ付爲念申添フ

421 昭和8年7月29日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

米国余剩綿花・小麦と我が方生糸との物々交換的取引き案に米国大統領も賛意を表明した

との米国元駐伊大使内話について

ワシントン 7月29日後発
本 省 7月30日前着

第六四七號(極秘)
往電第六三五號ニ關シ

二十八日 Child 来訪内話スル處ニ依レハ同人ハ二十六日大統領ニモ直接自己ノ計畫ヲ打明ケタルニ大統領ハ贊意ヲ表シ實現ヲ希望シタル趣ナリ目下御詮議中トハ察セラルモノ至急何分ノ御回電ヲ請フ

422 昭和8年8月2日 内田外務大臣より
在米国出淵大使宛(電報)

米国余剩綿花・小麦と我が方生糸との物々交換的取引き案は國際經濟會議後の状勢や日米関係の現状などを踏え研究を進めた旨通報

本省 8月2日後7時0分発
第一九六號(極秘)

貴電第六三五號接到前本邦生糸業者一部ニ類似ノ考案ヲ有スルモノアリ今井五介氏一應ノ案ヲ携ヘ既ニ客月二十五日

横浜出帆ノ大洋丸ニテ渡米ノ途ニ就キ何レ何分ノ御意見ヲ

求ムルコトナルベキ處一方通商局長ヨリ紡績聯合會長阿部房次郎ニ對シ同局長一箇ノ思付トシテ必要ナル場合同會トシテ毎年一定量ノ米棉買入ノ約束ヲナス可能性ニ就キ質シタルニ對シ同會貟^(マ)トシテハ何ノ途毎年百五十萬俵見當ノ米棉ヲ買付ケ居ル実状ニ鑑ミ外交上御利用ノ途アラバ最低百萬俵値段ニ依リ更ニ増額位ノ豫約ハナシ得ベク其ノ取扱ハ從来ノ在米商社ヲシテ其儘之ニ當ラシメ得ル次第ナリトノ内話アリ

本件ハ經濟會議後ノ状勢、日米關係ノ現状等ニ鑑ミ更ニ研究ヲ進メタキ意図ナリ差当リ貴官限リノ御含ミ追

423 昭和8年8月10日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

早晚日本とも互惠通商條約締結交渉を開始し

本件ハ經濟會議後ノ状勢、日米關係ノ現状等ニ鑑ミ更ニ研究ヲ進メタキ意図ナリ差当リ貴官限リノ御含ミ追

653

本使ヨリ軍縮會議ニ關スル長官ノ感想ヲ探リタルニ經濟問題モ軍縮問題モ要スルニ「ナシヨナリズム」ノ感情緩和ニ伴ヒテ進展ヲ見得ル譯合ニテ今日ノ模様ニテハ該問題モ乍遺憾抄タシキ進行ヲ見ルコトヲ得サルヤニ觀察セラレタリト述ヘタリ

(二)⁽²⁾ 次ニ本使ヨリ本年十二月「モンティビデオ」ニテ開催セラルヘキ汎米會議ニハ長官自ラ出（席）セラルルヤニ傳ヘラレ居ル處右ハ既ニ決定セラレタル次第ナリヤト尋ネタルニ長官ハ該會議ノ重要性ニ顧ミ目下熱心ニ研究ヲ進メ居ルモ自分自ラ之ニ出席スヘキヤ否ヤ未タ決定スルニ至ラスト語レリ

(三)⁽³⁾ 次テ本使ヨリ玖馬ノ時局ニ言及シ自分ハ玖馬ヲ兼轄シ居ル關係上昨今ノ狀況ニ付注意ヲ拂ヒ居ル次第ニ付同國ト

最モ重大ナル利害關係ヲ有（スル）米國政府ノ大体ノ方針ヲ承リ度シト述ヘタルニ長官ハ「ハバナ」ニ於ケル最近ノ發展ハ如何ニモ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ既ニ英國及西班牙ヨリ居留民ノ保護ニ付話合ヲ受ケ居ル次第ナリ米國政府トシテハ最惡ノ場合ニハ Pratt Amendment ノ規定ニ依リ積極的干渉ヲ行ヒ得ル次第ナルモ今日ハ未タ其

第六三五號ノ茶^(マツ)ハ提案中種々色ハ付ケアルモ煎シ詰ムレハ日米間ニRFCヲ利用シテ最長期ノ信用商取引ヲ行ヒタシトノ提案ニテ同巧異曲ノモノトハ認メラルモ紹介者ノ經歷及其ノ現政府トノ關係ニモ鑑ミ將又紹介者自身ハ日米經濟關係ノ聯絡強化ニ依ル日米外交關係ノ調整ナル見地ヨリ考案セルモノニテ單ナル思付ニアラス從テ専門的ノ詳細ナル具体案ヲモ準備シ居ル旨申出居ル關係モアリ一應處置方ニ關シ請訓シタル次第ナリ就テハ貴電御來示ノ通種々ノ關係御考慮中トハ想察セラルルモ問題ノ實体ハ商取引關係ナルノミナラス當方トシテモ紹介者ニ對シ何分ノ回答ヲ約シ居ル故餘り長ク引延スコトハ諸般ノ關係ヨリ面白カラス又貴電ニ依レハ近ク今井五介ノ來華ノ際本使ノ意見ヲ求ムルヤニ解セラルル處同人ハ具体的ニ此ノ種ノ商取引商談ヲ進ムル權限ヲ有スルヤ又棉花買入トノ關係迄モ交渉ヲ進メ得人ノ相談ニ應スルニモ實ハ當惑ヲ感シ居ルニ付旁往電第六

三五號ニ関スル何分ノ御意見成ルヘク至急御回電仰キ度シ尙卑見ニ依レハ本件ハ具体的問題トシテハ未タ的確ノ内容

ノ時期ニ達シタルモノトハ思ハレサルニ付專フ平和手段ニ依リ事態ノ改善ヲ見ル様最善ノ努力ヲ爲シツツアリト語レリ

(一)ヲ英國ニ轉電シ歐洲各大使ヘ郵送セシム

(三)ヲ玖馬ヘ轉電セリ

424 昭和8年8月12日 在米國出淵大使より 内田外務大臣宛(電報)

米国余剩綿花・小麦と我が方生糸との物々交換的取引き案に対する我が方方針回示方請訓

ワシントン 8月12日後発
本 省 8月13日前着

第六六四號

貴電第一九六號ニ關シ

類似ノ取引ニ關シ豫テ他ノ方面ヨリモ二三申出タルモノアリタルカ何レモ特ニ具体化シ居ラサル思付ニ類スル提案ニ過キスト認メラレタルノミナラス此ノ際RFCノ貸出制度ヲ利用シテ商取引ノ利益ヲ收メントスル米國商人ノ運動ニ引掛ル嫌モアリ當方限リニテ体好ク應接シ居リタル處往電

ナク右ハ今後ノ交渉ニ依リテ決セラルヘキモノナルモ我方トシテハ本件ニ對シ積極、消極何レニ御決定ニナルモ夫レ迄ノコトナルカ若シ政府ニ於テ此ノ種取引ノ成立ヲ希望セラルトセハ此ノ際成ルヘク早目ニ在米ノ各商社支店中例へハ三井、三菱ノ如キ生絲ニモ棉花ニモ乃至小麥ニモ輸出入双方ニ「インテレスト」ヲ有スル商社ヲ選ヒ之ヲシテ單獨ニテ又ハ關係社合同ノ「シンデケート」類似ノモノヲ作ラシメ之ヲ取引ノ相手方ニ指定セラル等ノ方法ニテ先方提案者ノ指定スル専門家ト會商シ具体案ヲ接洽セシムル途モアルヘキカト存ス提案者側トシテモ其處迄我方ヨリ進マヌ限り實際ノ具体的商議ニハ入り難カルヘク又本件ハ米國側トシテハRFCナル政府機關ヲ利用スル關係アルニ付我政府ヨリ普通ノ商取引ト看做シ全ク當業者ノ問題トシテ取リ合ハヌ方針ニ出テラレンニハ結局成立シ難キ事情モアルヘシト察セラル尙別途聞込ニ依レハRFCノ信用貸出ハ近來比較的容易ニ行ハレ得ルモノノ如ク又法律ノ建前ハ農產物ノ輸出ニ限ラレ居ルモ或程度ノ製造品ニ付テモ貸出ヲ得ル途絶無ニ非スト說ク者アリ尙又希臘トハ現ニ交渉成立ニ近付キ居レルカ右ハ希臘側ヨリ米國（脱?）ノ米國法ニ依

ル新會社ヲ設立シ棉花ト烟草トノ物々交換ニ類スル取引ヲ

内容トルモノナリト云フ英國トノ取引モ斡旋スルモノア

ルモ之ハ遂ニ成立ニ至ラサル模様ナリトノコトナリ御参考

迄

紐育ニ暗送セリ

425 昭和八年8月31日 内田外務大臣より

在米国出淵大使宛(電報)

米國余剩綿花・小麦と我が方生糸との物々交

換的取引き案推進のため米国政府および関係

団体の意向査報方訓令

付記一 作成日不明、簗田(不二夫)事務官稿

右物々交換的取引き案中の生糸の処分問題に

関する農林省担当課長談話要領

二 八月四日付井野(頃哉)農林省蚕糸局長より來

栖(三郎)通商局長宛蚕局秘第一六五号

右物々交換的取引き案に対する農林省意見

三 作成日不明、簗田事務官稿

右物々交換的取引き案に関する中島(久万吉)

商工大臣内話

本省 8月31日後8時30分発

第二〇七號(極秘)

貴電第六六四号ニ閲シ

両國関係ノ大局ヨリ見テ出来得レバ更ニ大規模ノモノトシ

テ本計畫ヲ進メ度意嚮ナルガ貴電末段ノ通り單ニ當業者限

リノ普通商取引トシテハ成立困難ナル事情モアルベク將又

本邦側関係輸出入業者ノ利害、生絲業者ト綿業者トノ利害

關係等ヲ可然調整シ之ヲ取纏ムル上ヨリ見ルモ少ク任両國

政府ノ諒解ヲ有スル取引タラシムルヲ要スト思考セラル、

處先ツ右ニ對スル貴見及ビ米國政府ノ意嚮承知致度又當方

棉花購入ノ関スル限りハ終局ノ消費者タル本邦紡績業者ノ

大部分ヲ網羅セル紡績聯合會アルヲ以テ取纏メ比較的困難

少ナルベキ見込ナルモ先方「パタソン」機業家團体其他

ニテ生絲購入ヲ豫約シ得ルモノアリヤ及ビ當方棉花購入百

萬俵ト見テ先方ノ生糸購入数量如何等ハ先ツ問題トナルベ

キニツキ右併セテ御回電アリ度シ價格ハ時價取引及ビ「ヘッ

デンク」ニテ市場変動ニ備フルノ外ナカルベク尚原案一千

万弗程度ノ取引トアラバ格別本案今日ノ「ステージ」ニテ

三井三菱等へ相談ハ差控ユル外ナシト思考ス

(付記一)

日米物々交換ノ件

(簗田)

八月一日農林省蚕糸局石黒繭糸課長ヲ訪問ノ上出淵大使來

電寫(バラ済)ヲ手交ス其ノ際石黒課長ノ談話要領左ノ通

リ

1 本件申出ノ眼目ハ本邦滯貨生糸ノ處分ニアリト思ハル

ル所謂補償生糸ニ關シテハ出淵大使來電中ニモアル如ク

『新規ノ用途又ハ又ハ販路』ナル制限條件アルヲ以テ之

ヲ融通スルコト困難ナリ(昭和七年絲價安定融資擔保生

糸買收法第八条参照)

2 元來右法律ノ趣旨ハ農林省ニ於テ買收シタル生糸ハ之ヲ

市場ニ賣出スコトナク却テ之ヲ賣出サブルコトニ依リ生

糸市價ノ騰貴維持ヲ來サシメ之ニ依リテ利益ヲ得ントス

ルモノニシテ右法律ノ制限モアルコト乍ラ農林省トシテ

ハ何等滯貨處分ヲ急ギ居ル次第ニ非ズ

3 普通ノ新生糸ヲ充當スルコトモ両國政府ノ承認ノ下ニ之

ヲ行フトスレバ蚕糸業者及綿業者全般ノ意嚮モ判明セズ

(欄外記入) 首題ノ件ニ關スル在米出淵大使發電報ノ趣了承致候處日米

間ノ經濟的協調ヲ圖ルコトハ寔ニ望シキコトナレドモ政府

ノ買收生絲ハ法律ニ依リ其ノ處分ヲ新規ノ販路又ハ用途ニ

制限シ居レル關係上目下ノ事情ニ於テハ遺憾乍ラ之ヲ本件ニ利用スルコトハ不可能ニ有之從ツテ交換ヲ為ストセバ一

般市場ニ於ケル生絲ヲ以テスル外ナク然ルニ生絲ノ如キ高
價ニシテ且價格變動ノ激シキ商品ヲ然モ大量ニ交換ノ目的
物ト為スガ如キハ實行容易ナラズト認メラルノミナラズ
此種商取引ハ差當リ政府ニ於テ介在斡旋スルニ適セザル様
思考セラレ候條可然御取計相成度此段及回答候也

米国余剩綿花・小麦と我が方生糸との物々交
換的取引き案に対する今後の我が方対処方に
つき意見具申

ワシントン 9月6日後発
本 省 9月7日前着

(⁽¹⁾第六九二號(極秘)
貴電第二〇七號三關シ

一、日米關係ノ大局上大規模ニ此ノ種ノ計畫ヲ進ムルコトハ
本使ニ於テモ出來得ルコトナラハ其ノ實現ヲ希望スル次
第ナルモ内容ハ何トシテモ純然タル商取引ナルニ付取引
ノ實狀ニ不案内ナルモノトシテハ利害得失乃至實現ノ能
否ニ關シ確信ヲ有セス差當リ往電第六三五號ノ原案ヲ擴
大シタル案トシテ其ノ實行方面ニ於ケル事情ヲ今日迄ニ
取調ヘタル處ニ依レハ棉花ニ關シテハ御來示ノ通り本邦
側當業者ノ纏マリ或ハ比較的容易ナルヘク察セラレサル
ニ非サルモ小麥ハ値段ノ關係上濠洲又ハ加奈陀ヨリノ買
付ヲ廢シテ米國ヨリノ買付可能ナルヤノ疑問アリ殊ニ生
糸ニ至リテハ棉花等トハ異ナリ未タ國際的格付ノ確立モ
困難ナル由ニテ生糸取引ハ頗ル複雜ナル商取引トナリ居

(欄外記入)
本信ニ基キテハ差當リ電報等ノ處置ヲ採ラザルコト

(付記三)

(蓑田)

本件ニ関シ八月四日重光次官ニ於テ中島商工大臣ヲ往訪、
懇談セラル所アリタリ、其ノ際商相ハ別紙(省略)「ゼネラル・
モータース」来信ヲ次官ニ手交ノ上本件其ノ他此種日米両
國貿易振興ノ考案ニハ大イニ盡力スベキ旨内話アリタル模
様ナリ

426 昭和8年9月6日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛電報

リ就中我生糸ノ輸出商乃至米國側輸入商及企業家側トノ
間ニハ常ニ利害ノ關係紛糾シ居レル現狀ナルヲ以テ簡單
ニ交換ノ目的ト爲シ得ルヤ甚タ疑問ナリ又米國側ハ棉花
又ハ小麥ノ輸出資金ヲ米國會社ニ融通スル關係上輸入生
糸ヲ右資金ノ擔保トスル必要アルヘキニ付假ニ該輸入生
糸力本邦側ノ手ヲ離レタル後R、F、Cノ擔保トナリ本
邦當業者ト何等聯絡モ無キ米國側ノ手ニテ處分セラルル
カ如キコトアルニ於テハ唯サヘ市價ノ不安定ヲ懸念セラ
ルル生糸市場ヲ攬亂スル惧無キヤ(我補償生糸ノ處分ニ
對スル制限立法ノ趣旨モ茲ニアルヘシ)大規模ノ取引ト
ナレハナル程此ノ種ノ疑問ト危險トヲ増スヘキカト感セ
ラル貴電ノ大規模計畫ノ内容モ原案ノ機構
⁽²⁾ヲ全ク離レタル別種ノ物々交換的取引ナラハ格別ナルモ
今少シク御計畫ノ内容明カナラサル限り米國政府ノ意図
ヲ探ル事ハ躊躇セサルヲ得ス

三、米國政府トシテハ御承知ノ通り棉花及小麥ノ過剩ニ苦ミ
其ノ輸出ニ對シテR、F、Cヲシテ便宜ヲ供與セシメ居
ルノミナラス南米諸國其ノ他トノ互惠取極ノ方針モ畢竟
主要農產品捌口ヲ容易ニセントノ趣旨ナルヲ以テ我主要

輸出品タル生絲トノ物々交換ハ米國側トシテ主義上別ニ
異存ナカルヘシト察セラルモ實現ノ能否明カナラサル
以上米國政府側ニ對シテハ若シ主義上異存無ケレハ試ニ
物々交換ノ方法ヲ研究シ見テハ如何トノ申入ヲ爲ス程度
以上ノ事ハ出來難キ儀ト存セラル夫ニシテモ生絲ニ付前
(記)ノ事情有ル以上主ナル難點ハ寧ロ本邦側ニ在ルモ
ノノ如ク補償生絲ナラハイザ知ラス農家及輸出商ノ手ニ
在ル普通生絲カ果シテ多量ニ此ノ種取引ノ對象トナリ得
ルヤ又綿業側ニ於テ外交的ニ利用セラレ差支無シトハ云
フモノノ我經濟的實力旺盛ナル現狀ニ於テ我產業界ハ此
ノ種大規模取引ノ實行ヲ果シテ歡迎スヘキヤ等ハ本省ニ
於テ篤ト御詮議ノ上或ル程度ノ具體案ヲ練ラレタル後米
國政府側ト交渉スル事適當ノ順序カト思考セラル
貴電第二〇七號接到前ナリシヲ以テ別ニ深ク本問題ニ言
及セス最近紐育ニテ井上商務官代理ヲシテ夫トナク其ノ
意図ヲ質サシメタルニ同人ハ特別ノ成案ヲ有シ居ラス寧
ロ米國側ノ不況打開ヲ助クル爲R、F、Cヲ利用シタル
棉花ノ買入ヲ爲シ之ニ依リ我方ノ剩餘資金ヲ以テ日米關

(一) 前記二借款力對日牽制策ヲ有スルカ如キ政治的惡印象ヲ
間ニ締結セラレタル信用契約ヲ利用シ得ルカ如キ取極成立
スルコトヲ得ハ
寧口進テ有力商人ヲシテ輸入組合ヲ組織セシメ本邦商人力
必要ニ應シ「オーブン、マーケット」ニテ輸出小麥ヲ買入
キハ今回相當米國品ヲ輸入スルモ差支ナキ狀態ナルヲ以テ
萬「ブツシエル」ヲ輸入シ又三一年及三二年ニハ合計約二
千七百萬「ブツシエル」ヲ各國ヨリ輸入シ居ルニ鑑ミルト
得サル大量ニテ我國ハ一九三〇年度ニハ米國ヨリ七百五十

府トノ間ニ五千萬弗ノ信用契約ヲ結ヒ又「ソビエツト、アムトルグ」トノ間ニモ四、五百萬弗ノ信用契約ヲ結ヒタル際ニハ或ル者ハ是等契約ニ政治的意義ヲ含メ米國ノ對日牽

ニ詮議ヲ進メラルトセハ或程度ノ成案ノ御回示ヲ待チ
追テ米國側ノ了解ヲ求ムルコトトシ先ツ差當リ問題ヲ往
電第六三五號ノ範圍ニ局限セラレタル上若シ小規模乍ラ
此ノ種ノ取引モ可能且ツ有利トノ見込ナラハ今少シク
「チャイルド」又ハ關係米國會社トノ間ニ適當ノ筋ニテ
詮議ヲ進ムルコト然ルヘキカト思考ス尤モ「チャイルド」
ニ對シテハ曩ニ申出ノ次第ハ大体ノ筋ニ異存無キモ實行

四、企業家團体其ノ他ニテ生糸購入ヲ豫約シ得ルモノアリヤ
トノ貴電ナルモ御承知ノ通り企業家ノ多數ハ人絹ヲモノ併
用シ居ルノミナラス輸入業者トノ間ニ生糸ノ取引ヲ爲シ
居ルモノナルヲ以テ多量ノ原料仕入ヲ豫約シ得ル地位ニ
アラス且多年不況ニ苦メル企業家ハ原料仕入上寧口輸入
業者又ハ取扱者ニ貰フ處多キ現狀ニ於テ輸入業者等ヲ除
外シテ本邦ヨリ直接購入ヲ豫約シ得ルモノ少キ見込ナル
由ニテ又多數且多種ノ企業家ヲシテ直ニ本件取引ノ相手
方トシテ纏マリタル團体ヲ組織セシムルコト亦困難ナル
莫議ナリ

427 昭和8年9月20日 在ボートランド中 広田外務大臣宛(電)

ポートランド 9月20日前発
本省 9月21日前着

外「信用向上の觀点から北太平洋沿岸滯貨小麦
を我が方にも引受るべき旨意見具申

中日米關係改善および我が方に対する
信用向上の觀點から北太平洋沿岸滯貨小麦
を我が方にも引受るべき旨意見具申

第四〇號

當地方生產過剩小麥約四千萬「ブッシェル」カ華府政府ノ
補助金ヲ得テ近ク主トシテ極東ニ輸出セラレ加奈陀及濱洲
産小麥ト競爭のニ廉賣セラルヘキ形勢トナリタルニ付テハ
我方ニ於テモ種々御考量中ノコトト存セラル處裏ニ米國
政府力過剩棉花及小麥ノ海外處分ノ爲R、F、Cト支那政

テハ時節柄日米關係ノ不安ヲ除去スルニ資スル所鰐ガラ
サルヘク又

トモ認メラルノミナラス假令米國側ニ於テ應諾セサルモ日本政府力借款ヲ拒絕セラレタル次第ニ非サルヲ以テ面目問題ヲ生セサルヘク偶々「ルーズベルト」大統領ノ我方ニ對スル態度ヲ知ル一試金石トモナリ全然徒事ニハ非サルヘキカト思考ス

尙當方面ノ事情ハ隨時電報ノ通り新收穫ノ小麥ハ倉庫ニ收容スルヲ得ス農家ハ悲鳴ヲ擧ケ又太平洋岸ノ小麥カ南部又ハ東部ニ出廻ル時ハ米國內ノ小麥價格ヲ暴落セシムヘキヨトヲ憂慮シ政府ハ最高七百萬弗迄ノ補助金ヲ覺悟シテ一刻モ早ク海外處分ヲ急キ居ル狀態ナルヲ以テ經濟的見地ノミヨリスレハ我方申出ハ米國政府ニ於テ相當考量スヘキ事情ニアルヘキカト認メラル尤モ右小麥ノ支那借款ニ充當セラレタル殘リ全部ヲ引受ケルトスルモ現在ノ相場ニテハ僅力一千萬弗内外ナルニ依リ我國ハスル少額ノ信用設定ノ爲米國ニ交渉スルノ必要ナシトノ說モ立チ得ヘキモ政府ノ後援ヲ得タル我國有力商人ノ信用狀態ヲ以テスレハ支那及「ソ

ビエット」ニ比シテ有利ナル條件ニテ契約ヲ締結シ得ヘク
條件ニ依リテハ特ニ屈辱ニモアラサルヘキヲ以テ此ノ際閣
下ニ於テ當業者ヲ至急御招致相成リ本案カ經濟的ニ見テ我
方ニ不利ナラサル限り在米大使斡旋ノ下ニ本邦有力商人ヲ
シテR、F、Cトノ間ニ何等カノ形式ニ於ケル長期信用供
與方交渉セシメラルコト一策ニアラサルカト思考ス尙輸
出補助金下付案ハ農務長官ノ承認ヲ得ル迄ニハ十日間位ヲ
要スヘシ（ト）傳ヘラルニ付本件至急御考慮相煩度乍僭
越卑見申進ス

米及紐育ヘ轉電シ在米各領事及晚香坡ヘ暗送セリ

428 昭和8年9月22日

在シアトル内山領事より
広田外務大臣宛（電報）

米国における対日感情融和等の観点より北太

太平洋沿岸滞貨小麦を買付けるべき旨意見具申

シアトル 9月22日後発

本 省 9月23日前着

往電第七三號ニ關シ

第七四號

昭和8年9月22日

在シアトル内山領事より
広田外務大臣宛（電報）

米国における対日感情融和等の観点より北太

太平洋沿岸滞貨小麦を買付けるべき旨意見具申

シアトル 9月22日後発

本 省 9月23日前着

往電第七三號ニ關シ

第七四號

者トシテハ採算上考究ヲ要スル點ナルヘシ
但シ前記濠洲側ノ廉賣ハ當業者ノ最モ憂フル所ナルニ付卑
見トシテハ前段ノ趣旨ニ依リ購入シタル西北部乃至外國產
小麥ヲ原料トシテ製粉シタル麥粉ヲ東洋市場ニ輸出スル場
合ニ著シク値開キヲ生シタル時ハ政府ニ於テ關係會社タル
日清、日東、日本製粉等ニ損失ヲ補償セラルルカ又ハ満洲
國乃至北支那政權者ニ長期信用ヲ與ヘテ一定額ヲ引受ケシ
ムルカ何等カ適當ノ方法ニ依リ我方ニ於テモ英、米ノ積極
的產業保護政策ニ對應シ此ノ種海外商權確保ノ途ヲ講セラ
レテハ如何カト思考ス
米ヘ轉電セリ

429 昭和8年9月23日 在米国出淵大使より
広田外務大臣宛（電報）

北太平洋沿岸滞貨小麦への輸出補助金の程度

および性格に関する係官談話について

西北部小麥ハ今後本邦ニモ相當輸出ノ可能性有リ一方從來
對日輸出ノ殆ト全部ヲ取扱ヘル當地三井、三菱トシテハ濠
洲側力其ノ出盛期ニ至リ突然値下ヲ爲シ東洋市場カ一時大
混亂ニ陷ル事有ルヘキヲ慮リ最安値買付ノ好時期ヲ狙ヒ目
下慎重考慮中ナリ

然ルニ小麥ノ一部カ麥粉トシテ當地方ヨリ東洋ニ輸出セラ
ル事ハ我製粉ノ販路ニ甚大ノ影響有リ故ニ此ノ際我方カ
出來得ルタケ多量ノ小麥ヲ濠洲產ノ代リニ當地方ニテ買付
ケ以テ米國ヨリ小麥粉トシテ輸出セラルルノ餘地鮮カラシ
ムル事ハ望マシキ次第ニシテ右買付ハ當地方製粉會社ヲ除
ク一般ノ對日感情ノ融和ニモ資シ併セテ東洋市場ニ於ケル
帝國ノ經濟的實力ト權威トヲ示シ他面宋子文ノ棉麥借款ノ
效果ヲ我方ノ有利ニ轉用シ且濠洲乃至英國政府ノ關稅引上
ヲ牽制スルノ一助トモナルヤニ思考セラル
尤モ右買付ニ當リR、F、Cニ對シ支那側同様ノ信用設定
ヲ我方ニモ許ス様交渉スル事ハ政治的見地ヨリハ或ハ考慮
セラレサルニハ非サルヘキモ右ハ交渉ニ手間取り商機ヲ逸
スル憂有ルノミナラス高率ノ借款利子ト長期ニ亘ル爲替ノ
危險トヲ負擔セサルヘカラサルニ依リ資力充分ナル我當業
者アルニ鑑ミ過剩小麥中最モ厄介視セラレ居ル北太平洋
岸手持ノモノヲ先ツ輸出ニ依リ處分セントノ案成立シタル
事實アルニ鑑ミ過剩小麥中最モ厄介視セラレ居ル北太平洋
岸手持ノモノヲ先ツ輸出ニ依リ處分セントノ案成立シタル
處現在ニ於ケル小麥ノ國內價格ハ一「ブツシエル」七十五
仙國際市場價格ハ五十五仙見當ナルヲ以テ小麥ヲ國內ニ賣
捌カソカ爲ニハ右價格ノ差即チ二十仙ノ損失ヲ忍ハサルヘ
カラス之ヲ農民側ニ負擔セシムルハ到底不可能ナルヲ以テ
政府ニテ引受ケントスルカ本件補助ノ性質ナリ從テ補助金
ト言フモ國際價格ト國內價格トノ差損ヲ政府ニテ補助スル
ト言フニ止マリ輸出業者ヲシテ國內過剩小麥處分ノ爲國際
市場ニ遮ニ無ニ廉賣セシムル爲補助スルノ趣旨ニ非スト言
フ尙輸出業者カ政府ノ補助ヲ惡用シ外國市場ニテ他國品ヨ
リモ廉賣ヲ爲スカ如キ虞ナキヤトノ間ニ對シ係官ハ政府ハ
國際價格ト國內價格トノ差額以外ニハ補助セサルコトニ契
約出來ル筈ナルヲ以テ輸出業者カ自己ノ損失ニテ廉賣セサ
ル限り廉賣ノ問題ハ生セスト答ヘ尤モ此ノ點ハ現地即チ太

ワシントン 9月23日後發
本 省 9月24日前着

及消費ヲ刺戟シ以テ經濟界全体ヲ活躍セシメントシ之力方策トシテ

(イ)重要農產品ノ生產制限ト滯貨處分ニ依リ其市價ノ吊上

(ロ)三十三億弗ノ公共事業遂行ニ依リ失業救濟ト重工業ノ振作

(ハ)産業ノ國家統制ニ依リ價格其他ノ不當競争排除、生産及消費ノ均衡賃銀及労働雇傭率引上

(二)信用及通貨膨脹等ノ諸項目ヲ定メ且其實施上大統領ニ空前ノ獨裁權ヲ附與シタルカ政府ハ就中產業統制ニ關シ専大ナル機關ヲ設ケNRAノ名ノ下ニ大袈裟ナル宣傳及運動ヲ行ヒ產業統制網ヲ急速實現セント試ミツアリ故ニ今次ノ復興案ハ即チNRA運動ニ外ナラサルカ如キ感ヲ與ヘ國民ノ注意ヲ主トシテ此問題ニ集中シツツアルモ實際上公共事業ノ進捗振及通貨政策ハ復興案ノ成否ニ對シ極メテ重要ナル關係アル次第ナリ

三、今前記各方策ノ實施振ヲ見ルニ

(イ)農產品ノ市價引上ハ相當ノ結果ヲ示シ殊ニ小麥及棉花ノ如キ本年四月ニ比シ現在三割乃至四割高ヲ維持シ從テ農民ノ購買力幾分増進セル模様ナルカ何分不況中農產物ハ

下落甚シカリシ爲現在ニ於テモ工業品ニ比シ市價ノ均衡ヲ失シ農民ノ窮状ヲ充分緩和シ得サルカ如シ
(ロ)公共事業ニ關シテハ政府ハナルヘク本年内ニ三十三億弗ノ使途ヲ定メ事業ヲ進行セントシツアルモ今日迄ニ決定シタルハ約十六億弗ニシテ實際支出済ノ金額ハ僅ニ六、七千萬弗ニ過キスト云ハレ產業復興ニ資スル爲ニハ前途遼遠ノ感アリ

(ハ)產業統制案等實施ニ關シテハ規定トナルヘキ各種產業規約ノ成立仲々容易ナラサル爲政府ハ七月下旬所謂「プラソケット、コード」ヲ發表シ全國使用者ニ對シ本年末ヲ限り加入方ヲ慇懃シ宣傳大イニ努メタル結果既ニ使用者ノ九割迄加入スルニ至レリト報セラル然レトモ產業統制案ノ實施ニハ幾多ノ困難ヲ伴ヒ殊ニ労働ノ組合化、團体交涉權確認及賃金率決定ノ點ニ於ケル勞資ノ協調容易ナラサルコト、消費ノ增進ニ先立チ生産者ノ負擔ヲ急激ニ加重スル労働時間短縮ニ依リ雇傭率ヲ引上ケントスルモ現ニ多數ノ工場ハ操短中ニテ遽力ニ職工ヲ増加シ得サルコト、賃金引上ニ依ル購買力ノ增加ハ日用品ノ生産ヲ促進スヘキモ重工業方面ニハ影響少キコト等ノ事情ニ依リ

同案ノ遂行ト其ノ效果實現極メテ遲々タルヲ免レス(尤モ產業統制案中幼年工禁止及最低賃金確立ハ將來ニ相當ノ效果ヲ齎スヘシ)

(二)「インフレーション」政策ハ當初豫期セラレタ程急激ニ行ハレス今日迄ノ少景氣ハ寧ロ「インフレーション」ノ氣構ヘニ基クモノ多キカ如シ現政府ハ信用擴張ノミナラス通貨膨脹ノ爲極メテ廣汎ナル權能ヲ有スルニ拘ラス今日迄主トシテ信用擴張ノ方法ヲ執リ直接通貨膨脹ノ擧ニ出テサル爲「インフレーション」論者殊ニ農業利益ヲ代表スル政客等ハ當局ニ通貨膨脹ノ必要ヲ切言シツツアルモ

(イ)大統領ハ本年七月ノ株式暴落以來大イニ警戒シsound money說ニ傾ケル模様ニシテ明年一月議會開會セハ「インフレイション」運動又復擡頭スヘキヲ豫想シ夫レ迄ニ金融政策ヲ確立スルノ必要ヲ認メ凡ソ六ヶ月ヲ期シテ金本位復歸三、四割ノ平價切下ヲ實行スヘキ旨遠カラス聲明スヘシトノ說モアリ尙「インフレイション」ニ關シ米國勞働總聯盟、在郷軍人團ノ如キ有力團體力最近反對ノ態度ヲ表明セル事ハ注目ニ價スヘシ

リ

四、然ラハ以上ノ諸方策實施ノ結果當國ノ不況救濟上如何ナル效果ヲ齎シツツアリヤヲ觀ルニ第一大統領ハ今春來ノ非常時局ニ對シ勇敢敏速ニ對策ヲ講シタル爲國民ハ政府ノ措置ニ信賴シ其ノ間幾分不安ノ感ハアルモ一般ニ財界ノ氣分好轉シツツアル事ハ何人モ認ムル所ナリ

次ニ失業者復業ニ關シテモ既ニ幾分ノ效果ヲ擧ケ現ニ勞働省ハ三月乃至九月間ノ復業者數累計二百七十萬ト發表シ居ルモ右ハ九月初メ迄ニ六百萬人ノ就働ヲ見ル可シトノ當局ノ豫想ニ副ハス且今尙約一千萬ノ失業者ヲ殘スノ事實ニ想到セハ前途必シモ樂觀シ難ク殊ニ產業復興法ノ實施ニ關聯シ多數ノ企業ニ亘リ罷業續發シ當局ハ之カ調停ニ忙殺セラレ今ヤ其ノ成行如何ヲ憂慮スルモノ鮮カラス又一般物價ノ引上ケニ付テモ既述農產物ノ騰貴ヲ初メ日常品及工業原料ノ値上リヲ來シ七月月中旬以降下押シ氣味ナルモ現在重要商品市價ハ三、四月頃ヨリ平均二割高ニアリ方生產界モ氣迷ヒ乍ラ尙相當ノ生產ヲ維持シ居リ貿易モ輸出入トモ昨年ニ比シ幾分増進シツツアリ殊ニ小賣業力最近ニ至リ幾分活氣付キ來レルコトハ差當リ好反響ヲ與ヘ居

五、之ヲ要スルニ復興案ハ今日迄ノ實績ニ於テ相當見ルヘキ

モノアリト雖他方ニ於テ公共事業遂行ノ緩漫、勞働爭議ノ

續發、產業規約ノ實施ニ伴フ營業費ノ増大、銀行及企業家

双方ノ投資手控ヘ「インフレーション」政策ノ未決定ニ基

ク一般的不安、國際爲替ノ動搖等復興案ノ前途ニ重大ナル
障礙横ハリ居リ決シテ樂觀ヲ許サス尤モ言論界ハ大体政府
ノ復興案ヲ支持シ居リ本官等ノ接觸スル實業方面ニ於テモ
其成果ヲ期待スルモノ多ク今後產業統制及公共事業ノ進捗
ト共ニ金融政策ノ確定ヲ見又貿易方面ニアリテモ將來加奈
陀、中南米諸國トノ通商協定成功スル場合ニハ復興ノ望ヲ
増スヘシト雖固ヨリ是等ハ今後尙數ヶ月ノ推移ヲ見テ初メ
テ斷定シ得ル處ナリ

米ヘ暗送シ英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、伊、獨、白ヘ轉報アリタシ

433 昭和8年11月14日 広田外務大臣より
在米国出淵大使宛(電報)

補助金付滯貨小麦の輸出問題に關し米国側が
我が方小麦市場を圧迫する措置を取らぬよう

在本邦米国大使館參事官へ申入れについて

本省 11月14日後8時0分発

第二六二號

「ポートランド」発本大臣宛電報第五四号ニ閲シ

客年本邦ニ於テハ小麦三百万石ヲ五年内ニ増産スル計画ヲ
樹テ経費年額百七拾餘万圓ヲ以テ各般ノ獎勵施設ヲ講ズル
ト共ニ小麦價格ノ適當ナル引上維持ノ為其関税ヲ貳圓五拾
錢ニ引上ゲタル処圓為替低落ニ依リ小麦價格ノ騰貴シタル
關係モアリ本年度小麦収穫ハ百五拾万石ヲ增加シテ八百万
石ニ達シ之ガ一時ニ市場ニ出ヅルニ於テハ市價低落ノ虞大
ナルニ依リ農林省ニ於テ貯藏持越ヲ勸奨シ其ノ結果現在ニ
於テモ内地產小麦ノ販賣用手持少ク共百二、三拾万石アル
趣ナル處小麦市況ハ米國ノ小麦補償輸出ノ聲ニ依リ次第ニ
悪化シ今日ノ儘放置スルニ於テハ(「ポートランド」宛往
電第一〇号)ノ通本邦國內市場ニ入レズ支那方面ニ轉賣シ得
レバ免モ角)益々低落シ延テ農民ヲ苦境ニ陥ラシムベキ狀
態ニアル為農林省ハ小麦及小麦粉ノ輸入許可制度案ヲ立テ
其ノ実施ヲ熱心ニ希望シ来レルニ對シ外務省ニ於テ右ハ日
米両國間貿易ノ大局上面白カラザル影響ヲ及ボスモノト認

メ之ヲ抑ヘ居ル次第アル處偶々十日「ネヴィル」參事官他

用ニテ通商局長ヲ來訪シタルニ付同局長ヨリ米國ノ小麦廉
賣ガ問題トナリ防衛手段採用方ガ論ゼラレ居ルモ外務省ト
シテハ關稅定率法第五條適用等ノ手数ハ可成之ヲ避ケタキ
所存ナルニシキ米國側ニ於テモ本邦小麦市場ヲ圧迫スルガ
如キ措置ハ之ヲ差控フル様何分ノ配慮アリ度キ旨懇談シタ
ル處「ネヴィル」ハ之ヲ諒承シ本國政府ニ電報スベキ旨答
ヘタリ御参考込

本電外部ニ洩レザル様御注意アリ度シ

紐育、市俄古、「ポートランド」及「シャトル」ニ轉電シ

「シャトル」ヲシテ晚香坡ニ暗送セシメラ度シ

434 昭和8年12月12日 在ニュー・ヨーク埠内總領事より
広田外務大臣宛(電報)

国内産業擁護・輸出入促進方策および互惠通

商協定問題などに關する米国有力実業団体意

向について

ニー・ヨーク 12月12日後発
本省 12月13日前着

在米大使宛貴電合第二一二七號ノ次第モアルニ付不取敢其ノ大要ヲ左ニ電報ス

(⁽²⁾) 第一、米國貿易ニ聯絡關係アル多數ノ實業團體中最有力ニシテ政府及議會ノ政策ニ影響ヲ及ホスヘキ地位ニアル合衆國商業會議所全米外國貿易評議會全米製造及輸出協會綿織物協會等ノ意見ヲ綜合スルニ結局(一)經濟復興案ノ實施ニ伴ヒ國內產業ノ利益ヲ擁護スル爲特殊ノ保護政策ノ必要ヲ認ムルト同時ニ

(二)經濟復興ヲ恒久化スル爲ニハ輸出入ノ増(進)ヲ必要トシ殊ニ米國ノ債權國タル地位ニ鑑ミ單ニ輸出ノミナラス輸入ヲモ獎勵スルノ必要ナルヲ認メ

(三)右二様ノ目的ヲ遂行スル爲ニハ主要通商國トノ間ニ互惠通商協定ヲ締結スルト共ニ速ニ弗貨ヲ安定セシムヘシト言フニ歸着スルカ如シ

保護政策ニ關シテハ復興關係諸法規中ニ之ヲ豫見スルモアリ現ニ實行中ノモノトシテハ小麥及麥粉ニ對シ輸出補助金equalization fund 輸出農產品ニ對スル加工稅拂戻農產品加工稅ニ相當スル競爭品課稅 compensating tax 等アリ又現ニ手續中ノモノトシテ產業復興法ニ基ク外國競爭品輸入

(口)米國ハ護謨、生絲、珈琲、砂糖ノ如キ原料品及食糧品ノ輸入ヲ絕對必要トン

(ハ)米國ハ百五十五億ノ海外投資ト百十億ノ戰債トニ對スル債權國タルノ事實ニ鑑ミ寧ロ輸入超過國タルヲ當然トシスクシテ初メテ經濟復興ヲ恒久化シ得ヘシト主張シ居リ是等ノ意見ハ政府當局ヲ動カシツツアルカ如ク最近「ウォレス」農務長官カ米國ハ現在ノ通商政策ヲ改メ輸入超過ヲ計ルニ非サレハ對外債權拋棄ノ外無キニ至ルヘク右入超實現ノ爲ニハ單ニ生絲、砂糖ノ如キ農產品而已ナラス特種ノ外國製造品ノ輸入增加ヲ許スモ可ナルヘシト言明シタルコトハ注目ニ值スヘシ

第二、互惠通商協定ニ關シテハ前記ノ諸團體ハ何レモ輸出入増進ノ最モ重要ナル方策トシテ之力實現方ヲ力説シ居レリ例ヘ本年五月中合衆國商業會議所及米國製造家輸出協會ハ何レモ互惠稅率協定ノ交渉全權 blanket authority ヲ大統領ニ附與スヘキコトヲ決議シ又全米外國貿易評議會モ先般全國ノ貿易關係者ニ問合ノ結果同様ノ說有力ナルコトヲ確メタル趣ナルカ右交渉全權ニ關シテハ議會方面ノ政治關係ヲ顧慮シ大統領自ラ難色アリト云フ

制限問題(例ヘハ本邦關係商品トシテハ綿製敷物燐寸鉛筆等アリ又民間ニ於テ運動中ノモノトシテハ輸出保證制度(往電第二八四號)綿製品ニ對スル輸出保證金等ナリ(前記綿織物協會ハ綿業「コード」開始ノ結果綿織物ノ市價四割乃至六割方騰貴ニ海外市場ニ於ケル競争困難トナリトノ理由ノ下ニ輸出補助金下附方ヲ來議會ニ請願セント企テソツアルモ華盛頓方面ニテハ他ノ多數產業ヨリモ同様ノ要求出ツヘキ惧レ餘リ氣乘シ居ラサル趣ナリ)

次ニ輸入問題ニ關シテハ前記ノ諸實業團體ハ何レモ大局ノ見地ヨリ輸出增加ノ爲ニハ必然輸入増進ヲ要ストノ意見ヲ發表シ又此ノ趣旨ヲ以テ種々當局ニ建議シツツアリ例ヘハ全米外國貿易評議會ハ夙ニ斯ル意見ヲ主張シ去ル九月各種產業「コード」カ其ノ儘輸入業ニ適用セラレントシタルニ對シ之ヲ不當トシテ特別「コード」設定方ヲ當局ニ運動シ又米國製造家輸出協會ハ夙リ Buy American 運動並ニ高率關稅政策ニ反對シ

(イ)米國ノ輸出額ハ全米產額ノ十分ノ一ニ過キサルモ棉花、銅、煙草小麥ノ如キ重要品ノ輸出率ハ三割乃至五割以上ニモ達シ

ルへク除去スヘシト爲シ^(五)互惠交渉ヲ「ラテン、アメリカ」ノミナラス成ルヘク速ニ歐洲及太平洋諸國ニ及ホスヘシト云フニアリ

尙政府ハ最近酒類輸入ニ關シ「クオウタ」制ヲ採リ特惠國ニ對シ其ノ割増ニハ互惠主義ニ依ルヘキモノト爲シ（在米大使發閣下宛電報第八四九號參照）又大統領ハ特惠稅率「バーター」其ノ他國際協定ニ依リ過剩農產品ノ海外販路ヲ擴張スル爲一部局新設ノ目的ヲ以テ本月十一日準備委員ヲ任命シタルカ如キ今後互惠主張力米國通商政策ノ指導原理トシテ益々重視セラルヘキヲ豫想セシム

⁽⁵⁾第三、日米間ノ互惠協定ニ關シテハ前記諸實業團体ニ於テモ早晚其必要ヲ生スルニ至ルヘキ事ハ認メ居ルモ未タ具体的

研究ニハ入り居ラサル模様ニシテ從テ將來日米交渉ノ場合如何ナル品目及問題カ協定ノ基礎トナルヘキヤ未タ豫測シ得ヘキ時期ニ達セサルモ本官カ確實ナル方法ニ依リ探査シタル處ニ依レハ綿織物協會ニ於テハ前記ノ如ク「コード」

實施ノ結果綿製品ノ騰貴ヲ來シ弗價下落ニ依リ幾分之ヲ緩和シ得タルモ最近比律賓及中南米ニ於ケル日本品ノ進出ニ脅威ヲ感シ（例ヘハ米國綿布全輸出量ノ三割ヲ占ムル比律

賓ニ於テハ昨年四月ニハ日本品ノ輸入數量ハ米品ノ四分ノ一ナリシカ本年十月ニハ日本品ハ米品ヲ凌駕シテ其二倍トナレリ）前記ノ如ク輸出補助金運動ヲ行ヒ居レルカ數日中ニハ商務省主管局長ノ來紐ヲ求メテ對策ヲ協議スルコトトナリ尙同協會ノ一幹部ハ將來日米交渉ノ場合ニハ米棉購買ノ約束ノミニテハ満足シ難ク日本綿製品ノ輸入制限ヲ要求スルコトトナルヘキヲ暗示シ又全米外國貿易評議會ノ一幹部モ外國市場ニ關スル日米勢力範圍協定ヲ少クトモ兩國當業者間ニ締結スルノ必要生スヘキヲ告ケ又多年米國製造家ヲ惱マシタル特許權問題モ互惠協定ノ一問題タリ得ヘシト語レル趣ナリ

米ヘ暗送セリ

435 昭和8年12月13日 在ニュー・ヨーク堺内總領事より
広田外務大臣宛（電報）

日米間互惠通商協定問題への我が方対処方策

につき意見具申

ニュー・ヨーク 12月13日後発
本 省 12月14日前着

第二九一號（極秘）

往電第二九〇號ニ關シ

日米互惠協定問題ハ未タ世上ニ論議セラレサルモ今ヤ當國朝野ノ意意カ漸ク外國貿易ニ向ケラレ而モ輸出促進ノ方策トシテ互惠主義ニ依ル輸入ヲ重視シ來レル一方最近米國內外市場ニ於テ低廉ナル日本品カ益々米國品ヲ壓迫シツツアル爲米國側ヲシテ各種ノ防禦手段ヲ講セシメツツアルノ事實ニ鑑ミ早晚日米間ニ通商協定ニ關シ何等力交渉ヲ開始セサル可カラサル氣運トナル可キハ豫想ニ難カラス右ハ素ヨリ目下通商上公正ノ立場ニアル我方ヨリ進シテ發議スヘキ筋合ニ非サル可キモ若シ米國側ヨリ提議アリタル場合ハ勿論直接提議ナシトスルモ今後米國側ノ本邦品輸入抑制激化スルカ如キ場合ニハ日本政府ニ於テ右交渉ヲ試ミルコト得策ナリヤ否ヤハ豫メ考究シ置カルルノ要アル可シト存ス

本官ノ見ル處ニテハ日米貿易ハ大体均衡ヲ得且其ノ根幹力生絲及棉花ノ如キ無稅品ヨリ成リ日本ノ對米輸出總額中生絲ハ其ノ八割ヲ占メ更ニ茶、生毛皮、除蟲菊、薄荷、樟腦ノ如キ非競爭品ヲ除ケハ其ノ殘額ハ少ク陶磁器、或種ノ罐詰食料品、電球、玩具ノ如キ米國製品ト競争ノ立場ニアル

⁽²⁾翻テ兩國國交ノ大局ヨリ之ヲ見ルニ滿洲事件以來兔角緊張セル米人ノ氣分ハ最近漸ク落着キ來レルモ今尙何ト無ク釋然タラサルモノアリ殊ニ日露關係ノ惡化、海軍軍縮問題等ニ關スル新聞報道ノ影響モアリ米國官民ノ對日感ハ今尙不安乃至警戒氣分ヲ脫セサル實狀ナル處右局面打開ノ方策ニ關シテハ定メシ政府ニ於テ種々御考慮中ノコトトハ拜察スルモ差向キ仲裁停條約ノ交渉ノ如キモ未タ其ノ時期ニアラストセハ寧ロ兩國ノ實際的利害ヲ含ム特惠通商協定ノ交渉ニ依リテ兩國會談ノ端緒ヲ開キ先ツ以テ前記ノ警戒氣分ヲ解消シ機ヲ見テ海軍軍縮豫備交渉ニモ入り得ルノ素地ヲ作ルニ努ムルコト得策ナルヘシト思ハル

尤モ右御交渉ハ一面ニ於テ日米國交好轉ノ契機タラシムル爲ニハ目下米國ト羅典亞米利加諸國トノ交渉ノ如ク極メテ

秘密ニ之ヲ行ヒ其ノ奏功ヲ俟テ廣ク其ノ公益ヲ宣傳スルノ方針ヲ採ルヘク万一日英通商問題ノ如ク當初ヨリ世上ニ喧傳セラレ且ツ双方ニ戰鬪氣分横溢スルカ如キコトアラハ交渉ヲ因難ナラシムヘキノミナラス協定成立ノ場合ニモ其ノ「モーラル、エフェクト」ヲ大ニ減殺スルノ惧アルニ付此ノ點ハ特ニ留意ヲ要スヘシ

今後當國經濟復興案ノ進捗ニ伴ヒ日本品ノ輸入制限問題ハ益々頻發スルニ至ルヘク殊ニ米國議會ニ於テ之ニ關聯スル種々ノ論議法案等モ現ハレ來ルヘキニ付テハ日米交渉ヲ必トスル機會ハ存外速ニ來ルヘキヤモ計リ難ク旁我方ニ於ケル準備的調査ハ一層急務ナルヤニ思考セラル尙英國力最近諸外國ト締結セル特惠協定ヲ見ルモ亦米國力現ニ交渉中ノ協定内容トシテ想像セラル處ニ依ルモ右ハ單ニ稅率及「フリーリスト」最惠國待遇ノ如キ問題ノミナラス輸入量協定、爲替管理調節爲替下落補償稅、獨斷的課稅評價、國產品使用率等諸般ノ問題モ考慮ニ上ルコトアルヘキニ付爲念申添フ

米ヘ暗送シ英ヘ轉電セリ
英ヨリ佛ヘ轉報アリタシ

表ヲ爲ササルコト屢々アルハ極東方面ヘノ賣行キ抄々シカラサルト手持品七十五萬「ブツセル」（法規上ノ最高額ハ百萬「ブツセル」）ニ達シ稍滿腹狀態ナルニ基ク又今迄ノ支那向ヶ輸出概算六百萬「ブツセル」ナルカ其内麥粉トシテ輸出セラルモノ百五十萬「ブツセル」ニシテ製品ハ滿洲、香港方面ニ仕向ヶラルヘク小麥價格ハ漸落歩調ニテ十三日午後ハ十二月渡四十八仙半ナル今日迄ノ最低價格ノ輸出申込ヲナシタルモ未タ商談成立セス云々ト語リタリ
米、「シャトル」ヘ轉電シ、紐育、晚香坡ヘ暗送セリ

437 昭和8年12月14日 在米國武富臨時代理大使より

広田外務大臣宛（電報）

互惠通商協定問題に関する國務次官補談話に
ついて

ワシントン 12月14日後発

本省 12月15日後着

貴電合第二一二七號ニ關シ

米國ニ於テモ經濟復興諸施設ノ進行ト共ニ米國製造業者等

436 昭和8年12月14日 在ポートランド中村領事より
広田外務大臣宛（電報）
輸出補助金付小麦の輸出状況などに関する係
官内話について

「モーラル、エフェクト」ヲ大ニ減殺スルノ惧アルニ付此ノ點ハ特ニ留意ヲ要スヘシ

ポートランド 12月14日前発
本省 12月15日前着

第五九號

往電第五八號ニ關シ

農務長官代表者ノ十三日本官ニ内話スル處ニ依レハ今日迄補助金ヲ得テ小麥輸出商談ノ成立セルモノ累計八百十萬「ブツセル」内日本向百三十七萬ニシテ最近三週間ノ賣行ハ僅二百六十萬内日本向ケ三十二萬ニ過キサル閑散狀態ナルカ右ハ東洋市場ニ於ケル濠洲品トノ競争モ一原因ト思ハル十三日午前「ポートランド」渡五十仙ニテ日本向ケ二千噸成立シ之ヲ十二日協會ノ買入價格七十三仙ニ比スレハ補助金額ハ二十三仙ナルモ今日迄ノ處大體二十仙見當ヲ維持シツツアリ云々北太平洋小麥ノ六割ヲ支配シ居ル「フアーマース、ナショナル」會社副社長ニ面談シタル處緊急輸出協會力最近農家ヨリノ買入レヲ手控ヘ買入レ値段ノ發

ノ運動ニ刺戟セラレNRA「インポート、デイビジョン」及關稅委員會等ニ於テハ廉價ナル外國品ノ輸入防遏ノ爲着々具体案考究中ニテ現ニ日本關係品モ數種問題トナリ居レルコト累次電報ノ通ナルカ他方大統領ハ十一月二十日國務大臣藏商務農務各省及NRA、AAA關稅委員會等ノ代表者ヲ交ヘタル「エクセキュー・ティーズ、コムマーシヤル、ポリシー、コソミツティ」ノ組織ヲ命シ十二月十一日右ヲ更ニ擴張シAAA總裁「ジョウジ、ピーグ」ヲ任命シテ專ラ之力委員長タラシメ將來通商互惠協定交渉ノ諮詢機關タラシムル意嚮ナルヲ發表シタルヲ以テ右機關ノ眞相ヲ確カムルト同時ニ貴電ノ御趣旨ニ依リ我方ノ態度ヲ國務當局ニ徹底セシメ置クコト必要ナリト考ヘ小官十三日國務次官補「セイヤー」（右委員會ニ國務省ヲ代表スル一人ナリ）ト會談セルカ其談話中參考トナルヘキ點左ノ通

一米國トシテハ互惠主義ニ基ク通商協定ヲ締結シタキ考ヘニ變化無ク現ニ差當リ最モ容易ニ締結シ得ヘシト認メラレタル南米四國及歐洲二國（往電第六二七號）ヲ目標ニ交渉ヲ開始シタルカ其中「コロンビヤ」トハ同國ニハ米國品ト競争ノ關係無キ珈琲アル爲話ハ比較的簡單ニ進行

シ近ク調印ノ運ヒニ迄ナリタリ其他ノ各國トモ交渉スル
積リナルカ上院ニ批准ヲ求ムル關係等ヲ考慮シ六國トノ
間ニ締結ヲ了シタル上ニテ何分ノ意図ヲ定メタキ方針ナ
リ

編注 本電は分割電報であるが、その(2)以下見当らず。

438 昭和8年12月15日 在ニューヨーク堀内總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日米関係改善の一方策として日米通商協議会

設立について

ニー・ヨーク 12月15日前發
本 省 12月16日前着

第二九三號

日米關係改善策ニ關シテハ本年六月往電第一七九號ヲ以テ
一應卑見稟申ニ及ヒ置キタル處爾來種々具体案考究中偶今
夏小松隆氏來紐ノ節全國貿易(協)議會 National Foreign
Trade Council (N, F, T, C)ト略稱ス、全國ノ有數ナ
ル實業家百餘名ヨリ成リ前U. S. Steel社長 James Farrell

(¹)議長トス) 會長 Eugene Thomas ヨリ同氏ニ對シ日米
通商關係者間ニ何等力聯絡機關ヲ設ケテハ如何トノ意見ヲ
述ヘタル趣小松ヨリ内報アリタルニ付爾來本官ニ於テ「ト
マス」ト屢々談スルト同時ニ一面在米大使及三井、三菱、
正金ノ各代表者トモ協議ヲ重ネ最初ハ日米商業會議所ノ如
キ獨立ノ一機關ヲ設立スルノ案ヲ考慮シタルカ費用其他ノ
點ニ於テ困難アルヲ認メ結局前記N, F, T, Cカ數年前
ヨリ其姉妹團体トシテ玖馬南米通商ニ關スル一關係機關ヲ
組織シ好成績ヲ擧ケ居ル例ニ倣ヒ日米間ニモ同様ノ機關ヲ
設ケルコトトナシ大体左ノ諸點ニ付彼我意見ノ一致ヲ見タ
リ

一、日米通商上ノ相互利益ヲ増進スル目的ヲ以テ先ツ一ヶ年
間ノ試トシテ日米通商協議會 Japanese American Trade
Councilヲ設ケN, F, T, C及日本實業代表者ヲ以テ之
ヲ組織ス
二、右協議會ノ會務ヲ處理スル爲日本人各六名ヲ以テ執行委
員會ヲ設ク
三、右協議會ニ關スル通信調查情報等ノ事務ハN, F, T,
C職員ニ於テ之ヲ引受クルモノトシ之ニ對スル代償トシテ

日本人會員ヨリ共同ニテ一年米貨三千弗ヲN, F, T, C
ニ支拂フモノトス但シ特別ノ經費ヲ必要トスル場合ニハ別
ニ之ヲ協定ス
N^{(2)ヨリダク}, F, T, Cハ日米通商上ノ相互利益増進ノ爲努力スヘ
ク右相互利益ニ關スル情報又ハ調査ヲ全國新聞其他ニ發表
スルコトヲ引受クルモノトス

五、右協議會執行委員ハN, F, T, Cノ主催ニ係ル貿易聯合委員會(有力ナル實業團體二十ヨリ成ル)ノ會合ニ參加
スルコトヲ得

十二月十三日本官ヨリ當地本邦商社代表者四十餘名ノ參集
ヲ求メ右ノ案ニ付協議シタル結果全會一致ノ贊成ヲ得タル
ヲ以テ不日日米人間ニ覺書^(註)ヲ作成シタル上明年一月一日右

日米通商協議會ヲ成立セシムル豫定ナリ尙昨年時局ニ關聯

シテ成立セル紐育日本人商業會議所ハ其儘存シ一面右協議
會トノ聯絡ニ當ラシムル筈
本件ハN, F, T, C側ト打合セノ上追テ發表ノ筈ニ付右
御含ヲ請フ

米、在米各領事へ暗送セリ

第八八〇號

439 昭和8年12月15日 在米國武富臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

汎米會議での通商障害撤廃に関する米国國務 長官提案について

ワシントン 12月15日後發
本 省 12月16日前着

(¹)「モンテヴィイデオ」ニ於ケル汎米會議ニ於テ十二日米國代表「ハル」ハ關稅低下通商障害撤廢ニ關スル提案ヲ爲シタル處其ノ要旨左ノ如シ右「テキスト」郵送ス

(一)米洲諸國ハ速ニ相互間及他ノ諸國トノ通商ヲ增進シ抱括的互惠條約ニ依リ通商障壁ヲ低減スヘク實行可能ナル最速ナル時期ニ於テ輸入禁止及制限制度ノ撤廢並ニ關稅率

ノ低減方ニ關シ二國間又ハ多數國間ノ協定締結ノ爲同時ニ交渉ヲ開始スヘキコトヲ約シ且世界ノ他ノ諸國ニモ其ノ參加ヲ要望スヘシ

(二)右協定ニハ各種ノ留保又ハ除外例ノ適用ヲ妨ケス就中關係各國ニ於テ現ニ實施又ハ將來實施スルコトアルヘキ國內的計畫殊ニ經濟復興計畫ヲ含ム一時的永久的又ハ其ノ他ノ非常措置ノ實施ニ關シテハ明白ナル留保又ハ除外例ノ適用アルヘキモノトス

(三)右協定參加國ハ協定ノ目的力通商ノ根本的障壁ノ實質的低減及通商政策ノ自由化ニ在リ單ナル空景氣ノ爲ノ暫定的且變態的制限ノ撤廢ニ止マラサルコトヲ明カニスルト共ニ例ヘハ國內消費量ノ三乃至五%ニ達セサル特定ノ物資ノ輸入ヲ制限シ又ハ國內生産量ヲ國內消費量ノ一五%ニ引上ケ得サルカ如キ關稅又ハ輸入制限ノ撤廢ニ全力ヲ盡スヘキコト

(四)輸入制限撤廢ニ關スル一九二七年ノ海牙協定ヲ復活修正シ又ハ新ニ同一目的ノ協定ヲ締結シ世界各國ヲシテ出來得ル限り多數之ヲ受諾セシムル様努力スヘキコト

(五)右諸國間ニ締結セラルヘキ協定ニハ條約平等ノ原則

其ノ協力ヲ要求スヘシ

440 昭和8年12月15日 在ニユー・ヨーク堀内總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本通商協議会の活用方策について

ニュー・ヨーク 12月15日後発
本省 12月16日前着

第二九五號

往電第二九三號ニ關シ

今回全國貿易協議會N、F、T、C力先方ヨリ進ンテ我方通商關係者トノ聯絡ヲ申出タルコトハ偶々米人側ノ對日感情緩和ノ一證左トモ見得可キ次第ナルカ今後此ノ關係ヲ我方ニ有利ニ活用シ得ルヤ否ヤハ主トシテ邦人側ノ態度如何ニ依ル次第ナリ就テハ本官氣付ノ點ニ、三何等御參考迄左ニ申進ス

一、N、F、T、Cハ勿論日米通商促進ノ見地ヨリ日本側トノ聯絡ヲ希望シ居ル次第ナルヲ以テ我方ニ於テモ之ヲ直接政治上ノ目的ニ利用セントスルコトハ努メテ之ヲ避ケルヲ得策トス可シ(尤モ本官ニ於テ「トーマス」ト交渉ヲ開始

(Principle of equality of treaty)ニ基キ無條件且無制限ノ形式ニ於テ最惠國條款ヲ包含セシメ一般ニ正當ト看做サルル場合ノ例外ヲ除キ國際通商ニ對スル一切ノ統制手段ニ適セシムヘク又斯ル協定ニ依リ世界貿易全体ニ不利益ヲ及ホスカ如キ情勢ヲ誘致セサル様措置スヘキコト(六)右諸國ハ最惠國條款ノ適用ニ當リテハ「クオータ」制度又ハ其ノ他ノ輸入制限制度ヲ採用シ居ル國ニ於テ關係物資ノ供給上各國ノ享有スル競爭的地位ニ出來ル限り變動ヲ少カラシムル様右制度ヲ適用スヘキモノナルコトヲ闡明スルコト

(七)國際經濟自由化力統一的抱括的多數國間條約ノ成立ニ俟ツ所最大ナルニ鑑ミ右條約ノ成立助成ノ見地ヨリ右諸國ハ其ノ當事國タルニ國間條約中ノ最惠國條款ニ基キ多數國間條約ヨリ生スル利益ノ均霑ヲ主張セサルコト

(八)右諸國ハ一ノ常設國際委員會ヲ設立シ通商障壁低減ノ爲各國ノ執ルヘキ措置ヲ監視スルト共ニ前記政策ノ實行上各國ノ收メタル成績ニ關シ情報ヲ供給スルノ機關タラシムルコト

(九)如上ノ提案ノ有利ナル解決ノ爲休會中ノ倫敦經濟會議ニ

シタル當初「ト」ハ爲念本件ニ關シ國務省極東部長「ホウソベツク」ノ意見ヲ尋ネ其ノ贊意ヲ得タル趣ナリ)
「N、F、T、C會員ノ大半ハ輸出關係者ニシテ日本側力主トシテ輸入關係者ナル點ニ於テ一見双方ノ利害一致セサルヤノ感アルモN、F、T、Cハ其ノ傳統政策トシテ輸出獎勵ノ爲ニハ輸入促進ヲ必要トスルコトヲ年來主張シ來レルノミナラス常ニ政府及議會方面ト密接ナル聯絡アル事實ニ鑑ミ我方ニ於テ有利ニ之ヲ利用シ得ヘシト思ハル
三、今後米國復興案ノ進捗ニ伴ヒ又我方商權擴張ト共ニ輸入關係ノ各種問題頻出スヘク又一面米國政府ノ互惠通商協定ノ方針(往電第二九〇號御參照)次第ニ實現ヲ見ル場合ニハ日米當業者間ノ意見疏通ヲ計ルコト益々必要トナリ來ル可クスル事態ノ下ニ日米通商協議會ハ相當役立ツ可シト豫想セラル
四、尙N、F、T、Cハ夙ニ反日移民法修正ヲ主張シ一九三〇年羅府大會ニ於テ「クオータ」制採用方ヲ決議シタル行懸アリ其ノ幹部ハ依然トシテ右ノ意見ヲ保持シ居リ(桑公ノWallace M. Alexander モ會員ノ一人ナリ)又將來海軍縮問題等ニ關聯シ日米間ノ感情再ヒ緊張スルカ如キ場合

ニモ同團体トノ聯絡ハ自然我ニ好都合ナル可シ此ノ點ニ關

シ満洲上海事件當時各地「ジヤパンソサイティ」ノ如キ社

交團體力餘リ賴リトナラサリシニ反シ通商上ノ實利ニ基ク

聯絡ハ一層强硬ナル可キヲ信ス

尙日米通商協議會ニハ最初米人ノ專任書記ヲ使用セント企

テタルモ經費ノ關係上之ヲ見合スノ外無キコトナレルカ

將來我方ニ於テ大ニ此機關ヲ利用セントスル場合殊ニ前記

(三)ノ如キ事態尖銳化スル場合ニハ我方經濟的啓發モ益々必

要トナル可キニ付專任書記ヲ置キ之カ費用トシテ更ニ年五、

六千弗位ハ本邦内地ノ經濟團體又ハ政府ニ於テ之ヲ支出セ

ラル必生ス可キニ付此ノ點ハ豫メ御考慮置相成度シ

米及在米各領事へ暗送セリ

441 昭和8年12月16日 在米國武富臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

汎米會議での通商障害撤廃に関する國務長官

提案の背景と米国内の反響について

ワシントン 12月16日後発
本 省 12月17日前着

易ニ對スル最近ノ政策ノ傾向ヲ窺ハシムルニ足ルモノトシ
テ相當注意ヲ惹キ居レリ

(三)本件提案ニ對スル諸新聞ノ論評ハ大体ニ於テ好意的ニシ
テ即チ紐育「タイムズ」ハ關稅障壁ノ一般的低下ハ國內政
策上米國政府ニ取り不可能事ナルヲ以テ「ハル」ノ提案モ
一時的緊急的措置ニ對シテ除外例ヲ認メ居リ其ノ實行ニ關

シ⁽²⁾ 實行可能ナル最モ速カナル時期ナル留保的字句モ米國政府

力現在ノ國內政策ヲ改變スヘキ左程遠カラサル時期ヲ考慮
ニ入レ居ルモノト觀ラルヘク又最惠國條約ニ關シ或ル種ノ
場合ニ於テハ之力緩和ヲ提言シ居ルコトハ諸外國ヲシテ米
國關稅政策力今ヤ追々變化シツツアルコトヲ了解セシムヘ

シト論シ費府「レツヂヤー」ハ本提案ヲ採擇ヲ見ルモ實際
上大ナル效果無カルヘキモ會議參加國殊ニ亞爾然丁ノ贊成
ニ依リ國際商業ノ進運ハ徐々ニ緒ニ着クヘシト論シ又紐育
「ヘラルド、トリビューン」ハ互惠條約ノ提案ト最惠國條
款ノ主張トノ間ニハ矛盾存スルモ「ハル」ノ提案ノ論旨ハ
健全ニシテ通商障壁ノ撤回ハ通商及國內產業復興ニ資スル
所多カルヘシトテ「ハル」カ其ノ主張ヲ^(墨)緊持センコトヲ希

第八八四號

往電第八八〇號ニ關シ

(一)汎米會議ニ於ケル「ハル」代表ノ通商障碍撤去ニ關スル

提案ハ現下ノ不安狀態ニテハ汎米會議ニ於テ經濟諸問題ノ

討議ヲ爲スコト適當ナラストノ趣旨ノ去ル十一月九日ノ

「ロ」大統領聲明(往電第八〇〇號參照)ニ悖ルノ感アル

處右提案ニ際シ「ハル」ハ右ハ國際通商ヲ復活セシムヘキ

最モ實行的ナル方法ニ關スル政策ヲ宣言セルニ過キス今同

ノ會議ニ於テ條約ヲ締結シ又ハ其ノ他ノ「リーガル、コミ

ツトメント」ヲ爲サンコトヲ要求スルモノニ非スト說明ヲ

加ヘタル趣ナリ

(二)當國官邊ニ於テハ右提案ニ關シ何等説明ヲ爲シ居ラサル
モ昨今ノ新聞報道ニ依レハ「ロ」大統領ハ世界各國ヲ包含
スル關稅協定ノ締結ハ茲數ヶ月ハ實行到底不可能ナリト信
シ現下ノ狀勢ニ於テハ差當リ「ハル」ノ提案スル如キニ國
間ノ條約ニ依ル通商改善ヲ可トスル意見ヲ有シ居ルモノト
看ラレ十一日大統領力既電ノ通り自由貿易ノ主唱者タル前
農業調整局長官「ピーク」ヲ貿易促進ノ特別委員會長ニ任
命シタルト關聯シ「ハル」今次ノ提案ハ米國政府ノ外國貿

易シ⁽¹⁾ 第八九三號

442 昭和8年12月20日 在米國武富臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

米国における本邦品輸入防遏運動への対処策

および日米互惠通商協定問題につき意見具申

ワシントン 12月20日後発
本 省 12月21日後着

最近NRA施設ノ進展ニ伴フ米國製造業者ノ運動ノ結果本
邦關係商品中「ラッグ」鉛筆燐寸靴紐等ニ關シ產業復興法
第三條E項適用ノ問題起り居レル事既報ノ通ナルカ元來同
條項ハ先年來米國製造業者等力爲替下落國ヨリノ競爭輸入
品阻止策トシテ主張シ居タル「ダンピング」課稅問題ノ解

決案トモ見ラレ又從來餘り有效ナラサリシ關稅法伸縮條項或ハ不當廉賣取締法ニ比シ其ノ運用如何ニ依リテハ遙ニ效果的ナル可キヲ以テ今後ハNRAヲ利用シテ伸縮條項ノ適用ト合セ二重ノ手段ニ依リ輸入防遏ヲ圖ラントスルモノ生ス可ク現ニ鮪罐詰ノ如キハ十二月十五日關稅法第三三六條A項ニ依リ稅率引上ヲ見懸案解決ノ形ナルニモ拘ラス尙右ニテハ不満足ナリトテ加州鮪罐詰業者ハ「コード」ノ作製ヲ急キ速ニNRAヲ通シ本邦品驅逐ノ實ヲ擧ケント運動中ナリト傳ヘラル
(マニ)右情勢ハ今日迄ノ處トシテハ前記四種ノ本邦雜貨ニ對シテノミ感セラルニ過キサルモ將來ノ推移如何ニ依リテハ他ノ商品例へハ我生糸ト雖モ現在ノ如ク安值ヲ續ケ次第二人造絹糸ヲ壓迫スルニ至ラハ或ハ米國「レイヨン」製造家ノ對抗運動ヲ生シ再ヒ課稅問題擡頭シ遂ニハ或種ノ稅ヲ賦課セラルルニ至ルヤモ計リ難カル可シ殊ニ明年一月三日開會ノ議會ニ於テハ國內復興策ノ補助手段トシテ通商問題モ何等カノ形ニ於テ論議セラルル事有ルヲ豫想セラルルヲ以テ本邦側ニ於テモ此ノ際最モ慎重ニ對策ヲ講スルノ要有リト思考セラル既ニ昨年來當方ヨリモ高唱シタル我輸出業者

ノ統制案ハ貴電合第二一二七號ノ通り着々進捗中ナル由ニ付右統制ニ付テハ當業者ノ御指導上將又米國側運動ニ對スル方策上本邦内外ニ於テ取ル可キ對策等氣附ノ儘左ノ通り御参考迄ニ電報ス
(一)本邦ヨリノ輸入品カ米國品ト競争ノ立場ニ立チ種々問題ヲ惹起スルハ主トシテ本邦品カ法外ニ低廉ナル為元來米國ニ製造セラルルモノト同種商品ノ輸入ヲ可能ナラシムルニハ關稅ヲ支拂ヒテモ尙採算ヲ得ル程度ノ原價安ヲ要素トシ又競爭上賣值モ米國品ニ比シ低カル可キハ當然ナルモ今本邦側ノ統制ニ依リ輸出價格ヲ引上ケ同種米國品ト同値或ハ之ニ接近シタル價格ヲ以テ販賣スル時ハ原則トシテ一應米國製造家ノ感情ヲ緩和シ得ル筈ナルカ之ニ依リ本邦品ノ賣行減退セスシテ却テ高値ノ爲優良品ヲモ加ヘ益々米國品ノ販路ヲ侵スノ勢ヲ示ス時ハ米國製造家ハ一層刺戟セラレ從來ノ關稅引上運動ニ止ラス輸入數量ノ制限乃至輸入禁止方ノ運動ニ努ムルニ至ル可シ右ハ本邦側ノ統制上細心ノ注意ヲ要スル點ナル可シ
(二)本邦雜貨中電球「ゴム」製品燐寸鉛筆等ノ如キハ本邦金輪出再禁止迄ハ輸入目立タサリシモ最近爲替安其他ニ原因ヲ要スル點ナル可シ

シ著シキ進出ヲ示シ居レル處之等輸入商ハ主トシテ猶太系米人ニシテ低廉ヲ旨トシテ今迄ノ處下級品ヲ以テ下層階級ノ需要ヲ充シ居レルカ本邦ニ於テハ高級品ノ生産モ可能ナルヲ以テ此ノ儘之ヲ放置シ置ケハ米國上下一般消費者ノ需要ヲ獲得シ米國品ヲ次第ニ驅逐セントスルノ恐レヲ抱カシムル結果米國製造家ハ將來事重大化セサルニ先立チ之等ノ輸入防遏ヲ講セントスル次第ナリ
(2)故ニ斯ノ如キ商品ニ對シ本邦側力統制ニ依リ輸出價格ヲ引上ケ利益増進ヲ計ルコトハ可ナルモ輸出數量ニハ米國ノ情勢ニ鑑ミ適當ナル手加減ヲ加ヘ堅實ナル地盤ヲ築キ上クル迄ハ急激ナル輸出增加ハ戒メサルヘカラス而シテ若シ右ノ如ク輸出數量制限ヲ自發的ニ行ヒ難キ商品ハ早晚米國側ヨリ關稅引上ケ乃至輸入制限ヲ受ケ延テハ既ニ地盤ヲ築キタル商品ニモ其ノ累ヲ及ホス惧アルニ付本邦側トシテハ前記商品ニハ特ニ注意シ場合ニ依リテハ他商品ノ將來ヲ計リ一時之ヲ犠牲ニスルノ覺悟無カル可カラス
(三)陶磁器、「セルロイド」製品、綿製數物、絹織物、鮪及蟹罐詰等從來ヨリ原料關係及製造條件カ特ニ本邦ニ適シ居ル爲長ク對米輸出本邦雜貨中所謂「ステープル」品ノ地位

ノ統制案ハ貴電合第二一二七號ノ通り着々進捗中ナル由ニ付右統制ニ付テハ當業者ノ御指導上將又米國側運動ニ對スル方策上本邦内外ニ於テ取ル可キ對策等氣附ノ儘左ノ通り御参考迄ニ電報ス
(一)本邦ヨリノ輸入品カ米國品ト競争ノ立場ニ立チ種々問題ヲ惹起スルハ主トシテ本邦品カ法外ニ低廉ナル為元來米國ニ製造セラルルモノト同種商品ノ輸入ヲ可能ナラシムルニハ關稅ヲ支拂ヒテモ尙採算ヲ得ル程度ノ原價安ヲ要素トシ又競爭上賣值モ米國品ニ比シ低カル可キハ當然ナルモ今本邦側ノ統制ニ依リ輸出價格ヲ引上ケ同種米國品ト同値或ハ之ニ接近シタル價格ヲ以テ販賣スル時ハ原則トシテ一應米國製造家ノ感情ヲ緩和シ得ル筈ナルカ之ニ依リ本邦品ノ賣行減退セスシテ却テ高値ノ爲優良品ヲモ加ヘ益々米國品ノ販路ヲ侵スノ勢ヲ示ス時ハ米國製造家ハ一層刺戟セラレ從來ノ關稅引上運動ニ止ラス輸入數量ノ制限乃至輸入禁止方ノ運動ニ努ムルニ至ル可シ右ハ本邦側ノ統制上細心ノ注意ヲ要スル點ナル可シ
(二)本邦雜貨中電球「ゴム」製品燐寸鉛筆等ノ如キハ本邦金輪出再禁止迄ハ輸入目立タサリシモ最近爲替安其他ニ原因ヲ要スル點ナル可シ

バス輸入數量及價格等ノ協定ヲ爲スコトモ殆ト不可能ナル
ヘシ故ニ目下ノ處主トシテ米國側ノ運動ニ對シテ受身ノ態
度ヲ免カレス差當リ各關係輸入商ノ團体ヲ組織シ公聽會ニ
於ケル陳述ニ準備ヲ急キソツアル次第ナリ唯之等團体トノ
聯絡及一般的情報機關トシテ華府ニ相當有力ナル辯護士ヲ
常備シ置キ側面ヨリ本邦當業者ノ運動ヲ援助セシムルカ如
キコト益必要トナレルヤニ思考セラルモ（往電第八七九
號ノ二參照）之ニハ相當ノ費用ヲ要スル問題ナルニ付本邦
當業者組合等トモ御協議ノ上本省ニ於テ適當ナル方法ヲ講
セラル様致度シ

⁽³⁾五尙今後N、R、Aノ進展振如何ニ依リ若シ米國製造（家）
ノ態度更ニ益々惡化スルカ如キコトトナリ本邦重要商品ノ
輸出ニ迄モ累ヲ及ホスカ如キ事態トモナラハ兩國政府間ニ
何等カノ妥協換言セハ一種ノ互惠的協定ヲ必要トスル場合
生スルコトヲ豫想セラル其成否ノ見込如何ハ之ヲ別トシ今
ヨリ將來起ルコトアルヘキ場合ノ對策ハ本省ニ於テ篤ト御
研究置キアリタク又互惠協定問題ハ經濟會議準備ノ一トシ
テ本省ニ於テモ御研究アリタルヤニ傳承スルモ當時ト今日
トハ事情ニ變化モアリ更メテ御詮議ヲ要スル儀ト思考セラ

協定ト云フモ御承知ノ通單ナル關稅ノミノ互惠稅率ハ今後
ノ事態ニハ適當ナラス結局本邦ニ於テ統制セラレ米國品ニ
對スル直接間接ノ競争ヲ避ケ得ラル商品ヲ多數有スル事
ハ將來ノ交渉上我方ノ強味ナルニ付此點ヨリスルモ貴重合
第二一二七號ノ統制實行案ハ今後益々肝要ナリト思考セラ
ル尙經濟上ノ目的ヲ有スル此種協定ノ締結力相當ノ政治的
乃至外交的效果ヲ生スヘキハ多言ヲ要セス
在紐育總領事及商務官代理ト打合濟

443 昭和8年12月30日 在米國武富臨時代理大使より
広田外務大臣宛（電報）

米国との互惠通商協定に関する歐州列国の態度について

ワシントン 12月30日後発
本 省 12月31日前着

ル當方ヨリハ隨時情報電報ノ形ニテ累次報告シ置キタルコ
ト御承知ノ通ナル處該會議ノ前後ヨリ今日迄種々ノ機會ニ
於テ米國當局ト接觸ニ依リテ得タル印象ニ依レハ米國側ト
シテハ我方ヨリ適當ノ時期ニ於テ具体案ヲ提起セハ話合ニ
應スル意向アルモノト認メラルモ既報ノ通大統領カ上院
ノ批准ヲ俟タス效力ヲ生セシメ得ル此種互惠協定締結ノ權
限ヲ得ントスル行政部ノ企圖ハ前議會ニ於テ遂ニ提案セラ
レス來春ノ議會ニモ提案ノ得失尙疑問視セラレ居（ル）次
第ナルニ付當局トシテハ地方的又ハ職業的關係上ヨリ議會
内ニ於ケル議員連ノ反對ヲ招カサル如キ商品ヲ米國ヘノ重
要輸出品トシテ有スル諸國六ヶ國ヲ擇ヒテ先ツ交渉ヲ開始
シ其内全ク反對ノ聲ナカルヘシト思ハル珈琲ヲ有スル
「コロンビヤ」トノ協定調印ヲ了シタル始末ニシテ（往電
第八八五號及第八七六號）今後ハ右六ヶ國トノ交渉ノ模様
ニ依リ漸次他ノ方面ニモ着目シ來ルヘシト察セラル從テ此
ノ際トシテハ或ハ最近在紐育總領事ノ斡旋ニテ成立セント
シツツアル「ナシヨナル、フォレン、トレード、カウンシ
ル」ヲ通シテノ日米實業家ノ提携ヲ利用スル最初ノ試トシ
テ日米互惠協定ノ聲ヲ舉ケシムル事モ一案ナルヘク又互惠

第九一二號

往電第八九三號末段ニ關シ

其後來議會ニ關稅ニ關スル法案提出セラルヤノ噂專ラナル
處外交團ノ間ノ話ニ依レハ歐洲ノ大國ハ何レモ今日ノ處
米國トノ互惠協定等ニハ重キヲ置キ居ラス爲替相場及一般
經濟狀態ノ不安定ナル際強イテ之レヲ作ルモ實益無カルヘ
シトノ意見多ク中ニハ米國ハ今日ノ場合互惠ト云フモ「コ
ロンビヤ」トノ條約ノ如ク形式ハ互惠的ナルモ實質ハ自分
ノ輸出増進ニ利益アル條件ヲ附シ相手國ニハ自分ノ條件ヲ
聞キサヘスレハ殺スコトタケハ猶豫スヘシトノ態度ニ出テ
テ半ハ高壓的ニ形式タケヲ纏ムル位力關ノ山ナルヘシ從テ
他ノ五國トノ交渉モ行惱ミ居レリト云フモノアリ但シ歐洲
ノ酒輸出國中ニハ米國ノ輸入「クオータ」增加ノ爲米國農
產物トノ「バーゲン」ニ努力シ居ルモノ有ルハ事實ナリ